

Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting

リリース 6.5.1

セットアップガイド

ORACLE®
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise Reporting セットアップガイド, 6.5.1

Copyright © 1991, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Reporting Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

| | |
|---|----|
| 第 1 章 Hyperion Enterprise Reporting Web について | 7 |
| 始める前に | 7 |
| 始める前に把握しておくべきその他の情報 | 8 |
| Web ページと HTML | 8 |
| ハイパーリンク | 8 |
| グラフィック | 9 |
| フレーム | 9 |
| アクティブコンテンツ | 9 |
| ホームページのコンポーネント | 10 |
| 第 2 章 Hyperion Enterprise Reporting Web | 11 |
| Web ページについて | 11 |
| Web ページと HTML | 12 |
| 動的 Web ページと静的 Web ページ | 12 |
| HTML フレーム | 12 |
| 複合レポート | 15 |
| Hyperion Enterprise Reporting Web の機能 | 16 |
| 管理プログラム | 17 |
| Web サイトウィザード | 17 |
| お気に入り | 17 |
| Link Builder | 18 |
| パッケージ | 18 |
| チャート | 19 |
| 調査と展開 | 19 |
| 基準ベースのページ | 19 |
| 財務エージェント | 19 |
| 書式設定 | 20 |
| テンプレート | 20 |
| データの視点 | 20 |
| PDF レポート | 21 |
| データ入力モード | 21 |
| Hyperion Enterprise Reporting Web のレポートライブラリ | 21 |

| | |
|--|----|
| 第 3 章 入手可能なマニュアル | 23 |
| マニュアルの『情報マップ』 | 23 |
| セットアップガイド | 24 |
| 管理者用リファレンスガイド | 24 |
| テクニカルリファレンスガイド | 24 |
| ユーザガイド | 24 |
| オンラインヘルプ | 24 |
| インストールガイドと Readme | 24 |
| 第 4 章 システムの設定 | 27 |
| 管理プログラムでのシステムレベルオプションの設定 | 27 |
| アプリケーションの事前読み込み | 28 |
| LAN 上の Hyperion Enterprise アプリケーションデータへのアクセス | 28 |
| PDF 印刷の設定 | 30 |
| PDF の印刷方法 | 30 |
| データの視点バーでの長い形式の名前の使用 | 32 |
| すべてのレポートの行と列の見出しの保護 | 32 |
| すべてのレポートのデータ入力モードの有効化 | 33 |
| デフォルトブラウザの設定 | 33 |
| レポートの特殊文字の HTML への変換 | 34 |
| お気に入りの設定 | 36 |
| セキュリティの設定 | 37 |
| Spider.ini ファイルのシステムレベルオプションの設定 | 37 |
| 構文 | 38 |
| データの視点の設定 | 38 |
| データの視点オプションの設定 | 38 |
| スマートなデータの視点オプションの設定 | 41 |
| 保護データのみを表示 | 44 |
| エージェントオプションの設定 | 44 |
| マルチスレッドオプションの設定 | 46 |
| PDF の印刷方法 | 46 |
| ログファイルオプションの設定 | 48 |
| レポートのキャッシュ | 48 |
| ログオンのキャッシュ | 49 |
| 画像のクリーンアップ間隔 | 51 |
| repeng.ini ファイルのシステムレベルオプションの設定 | 51 |
| ユーザプロンプトの無効化 | 52 |
| 調査の設定 | 52 |
| 展開の設定 | 54 |

| | |
|--|-----------|
| カスタムファイルのパスの指定 | 56 |
| 例 1 - 同一ファイル名がパスにある 2 つのディレクトリで使用されている 場合 | 57 |
| 例 2 - デフォルトのテンプレートのコピーを使用する場合 | 58 |
| エージェントモニタの設定 | 58 |
| エージェントモニタサービスの設定 | 59 |
| エージェントモニタのオプション設定 | 60 |
| 第 5 章 セキュリティの設定 | 61 |
| セキュリティレベル | 61 |
| Windows NT Server のセキュリティ | 61 |
| データの暗号化 | 62 |
| セキュリティ保護されたリソース | 62 |
| アプリケーションレベルのセキュリティ | 62 |
| 管理プログラムのセキュリティ設定 | 63 |
| 保護されていないデータへのアクセスの禁止 | 63 |
| 管理パスワードの変更 | 64 |
| 財務エージェントのセキュリティ設定 | 64 |
| 第 6 章 最初の Web サイトの作成 | 67 |
| Web サイトウィザードの使用 | 67 |
| Web サイトウィザードについて | 67 |
| 始める前に | 69 |
| Web サイトウィザードの開始 | 70 |
| Web サイトの表示 | 70 |
| Microsoft FrontPage 2000 で Web サイトを開く | 70 |
| Microsoft FrontPage の詳細 | 71 |
| Web メッセージ | 71 |
| 索引 | 73 |

1

Hyperion Enterprise Reporting Webについて

この章の内容

| | |
|---------------------------|---|
| 始める前に..... | 7 |
| 始める前に把握しておくべきその他の情報 | 8 |

オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting Web は、Hyperion Enterprise Reporting のレポートを Hypertext Markup Language (HTML : ハイパーテキストマークアップ言語) を使用して Web ブラウザに表示するものです。Hyperion Enterprise Reporting Web は、Web サーバ、およびインターネットまたはイントラネットを使用してオラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R)アプリケーションからレポートを検索します。取得したレポートは、クライアントのコンピュータに配布されます。

Hyperion Enterprise Reporting Web に含まれるカスタム HTML テンプレートに基づいて、レポート、チャートおよびパッケージを Web ページに表示したり、Web サイトウィザードを使用して完全な Web サイトをすばやく作成したりすることができます。管理者は、Hyperion Enterprise Reporting Web を使用して、インターネットまたはイントラネット経由でコンピュータに Web ページを表示するエンドユーザのために、Web ページを作成します。

始める前に

Hyperion Enterprise Reporting Web を最大限に活用するには、製品を使い始める前に、以下の作業を行うことをお勧めします。

- 『Hyperion Enterprise Reporting インストールガイド』と Readme ファイルをすべて読んで、インストールに必要な動作環境と要件について把握します。
- ユーザ要件を定義します。
- 基本になる Hyperion Enterprise またはオラクル社の Hyperion Essbase アプリケーション、あるいはその両方の設計が、優れたパフォーマンスを得られるよう最適化されていることを確認します。
- Hyperion Enterprise Reporting が優れたパフォーマンスを得られるよう最適化されていることを確認します。
- Hyperion Enterprise Reporting Web サイトを計画します。Web サーバとネットワークセットアップ、ユーザとユーザグループのセキュリティ、遠隔通信環境などの問題を検討します。Web サイトの計画方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting Web 管理者用ガイド』の「Web サイトの計画」の章を参照してください。

- Web サイトをどのような外観にするか、Web サイトにどんな情報を表示するか、ユーザがすばやく簡単に情報にアクセスできるようにするために Web サイトをどのような設計にするかを決めます。

始める前に把握しておくべきその他の情報

Hyperion Enterprise Reporting Web を使い始める前に、以下の概念について把握しておくことをお勧めします。

- Hyperion Enterprise Reporting でのレポートとパッケージの作成
- 静的レポートと動的レポート
- テンプレート (.htx ファイル)
- ダイナミックリンクライブラリ (spider.dll) の機能
- クライアント/サーバアプリケーション
- ネットワークセキュリティ
- HTML
- Web サイトの基本設計

以下の項では、Hyperion Enterprise Reporting Web の使用方法を理解する上で役立つその他の概念について説明します。

Web ページと HTML

Web ページは、Web ブラウザに表示する文書を作成するための標準言語 HTML を使用して作成されたハイパーテキスト文書です。Hyperion Enterprise Reporting Web レポートに使用する HTML 文書を作成するには、テキストエディタまたは HTML エディタ、あるいは Link Builder を使用することができます。ハイパーテキスト文書には、他の文書やネットワークリソースにリンクするためのハイパーリンクを含めることができます。ハイパーリンクには、Uniform Resource Locator (URL) を使用してアクセスするネットワークリソースを指定します。

ハイパーリンク

Web ページの最も基本的な要素に、ハイパーリンクがあります。ハイパーリンクとは、HTML 文書をリンクするための HTML タグです。ハイパーリンクをクリックすると、設定した先に応じて、別の Web サイト、自分の Web サイト内の別の Web ページ、または同じ Web ページの別の場所に Web ブラウザがリンクします。

Hyperion Enterprise Reporting Web では、標準 HTML のハイパーリンクに加えて、以下のタイプのハイパーリンクを Web ページに含めることができます。

- レポート、チャート、およびパッケージへのリンク
- 他の HTML 文書または Web サイトへのリンク
- ハードコピー用 PDF レポートおよびチャートへのリンク
- Microsoft Excel のスプレッドシートへのリンク

- Distributed Schedules レポートへのリンク
- 財務インジケータ（条件ベースの Web ページ）へのリンク

Web サイトに表示できるデータのタイプについて詳しくは、『管理者用リファレンスガイド』の「Web サイトで表示できるデータの種類」の章を参照してください。

グラフィック

インターネットのほとんどの Web ページには、次のいずれかのグラフィック形式が使用されています。

- GIF (Graphic Interchange Format)。GIF ファイルには、最高 256 色を含めることができ、低解像度の画像を Web ページに表示する際に使われる最も一般的な形式になっています。GIF ファイルには、.gif という拡張子が付きます。
- JPEG (Joint Photographic Experts Group)。JPEG (JPG) ファイルは、写真などの高解像度の画像を Web ページに表示する際に使用します。JPEG ファイルには、.jpg という拡張子が付きます。

Hyperion Enterprise Reporting Web に含まれる画像は、すべて GIF ファイルです。Hyperion Enterprise Reporting Web では、Web サーバの wwwroot/images ディレクトリに GIF ファイルが保存されます。

Web ページ用のグラフィックファイルを作成および編集するには、画像編集プログラムを使用します。シェアウェアの画像編集プログラムとして最も一般的なものの 1 つに Jasc Software の PaintShopPro があります。これは次の Web サイトから入手できます。

<http://www.jasc.com>

フレーム

Hyperion Enterprise Reporting Web では、HTML フレームがサポートされています。フレームにより、2 つ以上のスクロール可能なペインに Web ページを分割できます。各ペイン（フレーム）には、別の HTML 文書を含めることができます。

Hyperion Enterprise Reporting Web でのフレームの使用方法について詳しくは、このガイドの [15 ページ](#)の「[フレーム設計上の考慮事項](#)」を参照してください。

アクティブコンテンツ

Web ページのアクティブコンテンツは、HTML で対応できない対話機能を追加するものです。Hyperion Enterprise Reporting Web では、以下のアクティブコンテンツを使用します。

- Javascript - Java に基づくスクリプト言語。Javascript を HTML 文書に組み込むことで、Web ページに対話機能を追加することができます。Hyperion Enterprise Reporting Web では、保護された行と列の見出しテンプレートに Javascript を使用しています。

- Dynamic HTML (DHTML : ダイナミック HTML) - DHTML により、ページに別のスタイルシートを添付して、Web ページの外観を変えることができます。DHTML を使用して、Web ページに HTML 要素を動的に配置したり、変更したりすることができます。

ホームページのコンポーネント

複数 Web ページ (HTML 文書) を含むサイトにはホームページも含めることができます、これが、ユーザが Web サイトの閲覧を始めるときのホームページとして機能します。Hyperion Enterprise Reporting Web サイトの設計時には、ホームページを含めることと、ホームページに次の要素を含めることを検討してください。

- 製品、アプリケーション、およびレポートセットの動的一覧
- 会社のロゴ
- お気に入りページ (作成するユーザまたはユーザグループが共有する Web ページ) へのリンク
- PDF レポートへのリンク
- 利用頻度が高いレポートへのリンク
- 主要財務インジケータ

今回のリリースに含まれる Web サイトウィザードにより、完全な Hyperion Enterprise Reporting Web サイトをすばやく作成することができます。Web サイトウィザードでは、前述のリストにあるホームページ要素のいくつかを選択することができます。Web サイトウィザードについて詳しくは、[67 ページの「Web サイトウィザードの使用」](#)を参照してください。

この章の内容

| | |
|---|----|
| Web ページについて | 11 |
| Hyperion Enterprise Reporting Web の機能 | 16 |

Hyperion Enterprise Reporting Web は、Web サーバ、およびインターネットまたはイントラネットを使用して Hyperion アプリケーションからレポートを検索します。取得したレポートは、クライアントのコンピュータに配布されます。Web サーバは Hypertext Transport Protocol (HTTP : ハイパーテキスト転送プロトコル) を使って情報を送信するネットワークファイルサーバとアプリケーションサーバです。

Hyperion Enterprise Reporting の Web サイトでは、Hyperion Enterprise アプリケーションのレポートにアクセスするハイパーリンクを含む Web ページを作成できます。クライアントコンピュータから Web サーバにアクセスし、Hyperion Enterprise アプリケーションのレポートをリクエストすると、Hyperion Enterprise Reporting Web によってそのリクエストが Hyperion Enterprise Reporting に渡されます。

Hyperion Enterprise Reporting はアプリケーションからレポートデータを取得し、Hyperion Enterprise Reporting Web に渡します。データはここで HTML (ハイパーテキストマークアップ言語) 形式に変換されてクライアントのコンピュータに送信され、クライアントのコンピュータの Web ブラウザに表示されます。

Hyperion Enterprise Reporting Web には、Windows 2003 server Service Pack 2 オペレーティングシステム上で Microsoft Internet Information Server (IIS 6.0) を実行し、Windows 2008 server オペレーティングシステム上で Microsoft Internet Information Server (IIS 7.0) を実行する Web サーバが必要になります。Hyperion Enterprise Reporting Web で使用するオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアのそれぞれを Web サーバにインストールする必要があります。また、Hyperion Enterprise Reporting も Web サーバにインストールする必要があります。Hyperion Enterprise Reporting Web で使用する各アプリケーションにアクセスすることが必要です。各製品のアプリケーションデータは、Web サーバか、Local Area Network (LAN : ローカルエリアネットワーク) の他のサーバに保存できます。

Web ページについて

Hyperion Enterprise Reporting Web の機能を使い始める前に、Web ページの基本コンポーネントについて理解しておく必要があります。

Web ページと HTML

Web ページとは、HTML により作成されたハイパーテキスト文書です。HTML は、Web ブラウザに表示する文書を作成するための標準言語です。Hyperion Enterprise Reporting Web レポートに使用する HTML 文書を作成するには、テキストエディタまたは HTML エディタ、あるいは Link Builder を使用することができます。ハイパーテキスト文書には、他の文書やネットワークリソースにリンクするためのハイパーリンクを含めることができます。ハイパーリンクには、Uniform Resource Locator (URL) を使用してアクセスするネットワークリソースを指定します。

動的 Web ページと静的 Web ページ

Web ページには、動的なものと静的なものの 2 種類があります。動的ページとは、ユーザのリクエストに応じて作成されるものです。Hyperion Enterprise Reporting Web では、動的な Web ページを作成して Hyperion Enterprise Reporting で作成されたレポートを表示することができます。

動的レポートページを設定するには、Web ページのハイパーリンクの URL に Hyperion Enterprise アプリケーションとレポートを指定します。ユーザがレポートを作成するためのリンクを選択すると、ブラウザに Web ページとしてレポートを表示することができます。動的に作成されたレポートには、ページの上部にデータの視点リンクが表示されます。ユーザはレポートの別のデータの視点を選択できます。Hyperion Enterprise Reporting Web は選択されたデータの視点でレポートを作成し直します。

静的ページとは、Web サーバにファイルとして保管された作成済みの HTML ページです。管理プログラムにより、Hyperion レポートまたはパッケージを静的 HTML ファイルに変換できます。静的レポートとパッケージファイルは、Hyperion Enterprise アプリケーションに動的にリンクされていないため、アプリケーションのデータが変更されても更新されません。

HTML フレーム

Hyperion Enterprise Reporting Web では、HTML フレームがサポートされています。フレームにより、2 つ以上のスクロール可能なペインに Web ページを分割できます。各ペイン（フレーム）には、別の HTML 文書を含めることができます。フレームを使用する動的レポートまたはチャートは上下のフレームに分割されており、上のフレームにレポートのデータの視点リンクが、下のフレームにはレポートがそれぞれ示されます。データの視点を別のフレームに配置することにより、レポートのスクロール中でも画面内にデータの視点リンクを保つことができます。さらに、レポートを印刷しても、データの視点リンクは印刷されません。次の図に、フレームを使用するレポートの開始部分を示します。

図1 フレームを使用したレポート - 開始部分

| Hyperion Enterprise [®] Reporting | | | | |
|--|--------|--------|------------|-----------|
| Home Enterprise Logout Help | | | | |
| Point of View: | INDIA | ACTUAL | DEC 99 | YTD SALES |
| Profit/Loss Schedule | | | | |
| India | | | | |
| December 1999 | | | | |
| | Actual | Budget | % Variance | |
| Gross Sales | 15,440 | 13,107 | 17.8% | |
| Cost of Goods Sold | 4,599 | 4,249 | (8.2%) | |
| Gross Margin | 10,841 | 8,858 | 22.4% | |
| Marketing Expense | 1,456 | 1,386 | (5.1%) | |
| R & D Expense | | 0 | | |
| General & Admin Exp | | 0 | | |
| Operating Expenses | 3,787 | 3,482 | (8.8%) | |
| Total Expense | 5,243 | 4,868 | (7.7%) | |
| Operating Income | 5,598 | 3,990 | 40.3% | |
| Interest Inc/(Exp) | 109 | (80) | 281.7% | |
| Translation Gain/(Loss) | | 0 | | |
| Pre-Tax Income | 5,707 | 3,930 | 45.2% | |

図2 には、同じレポートの終了部分を示します。レポートにフレームが使用されているため、図2のスクロール後でもデータの視点リンクがそのまま表示されますが、PDF ボタンは消えてしまいます。

図2 フレームを使用したレポート - 終了部分

| Hyperion Enterprise [®] Reporting | | | | |
|--|--------|--------|------------|-----------|
| Home Enterprise Logout Help | | | | |
| Point of View: | INDIA | ACTUAL | DEC 99 | YTD SALES |
| | Actual | Budget | % Variance | |
| Gross Sales | 15,440 | 13,107 | 17.8% | |
| Cost of Goods Sold | 4,599 | 4,249 | (8.2%) | |
| Gross Margin | 10,841 | 8,858 | 22.4% | |
| Marketing Expense | 1,456 | 1,386 | (5.1%) | |
| R & D Expense | | 0 | | |
| General & Admin Exp | | 0 | | |
| Operating Expenses | 3,787 | 3,482 | (8.8%) | |
| Total Expense | 5,243 | 4,868 | (7.7%) | |
| Operating Income | 5,598 | 3,990 | 40.3% | |
| Interest Inc/(Exp) | 109 | (80) | 281.7% | |
| Translation Gain/(Loss) | | 0 | | |
| Pre-Tax Income | 5,707 | 3,930 | 45.2% | |
| Taxes | 830 | 226 | (267.3%) | |
| Net Income | 4,877 | 3,704 | 31.7% | |

図 3 には、フレームを使用しない同じレポートの終了部分を示します。データの視点リンクと PDF ボタンの両方が消えています。

図 3 フレームを使用しないレポート - 終了部分

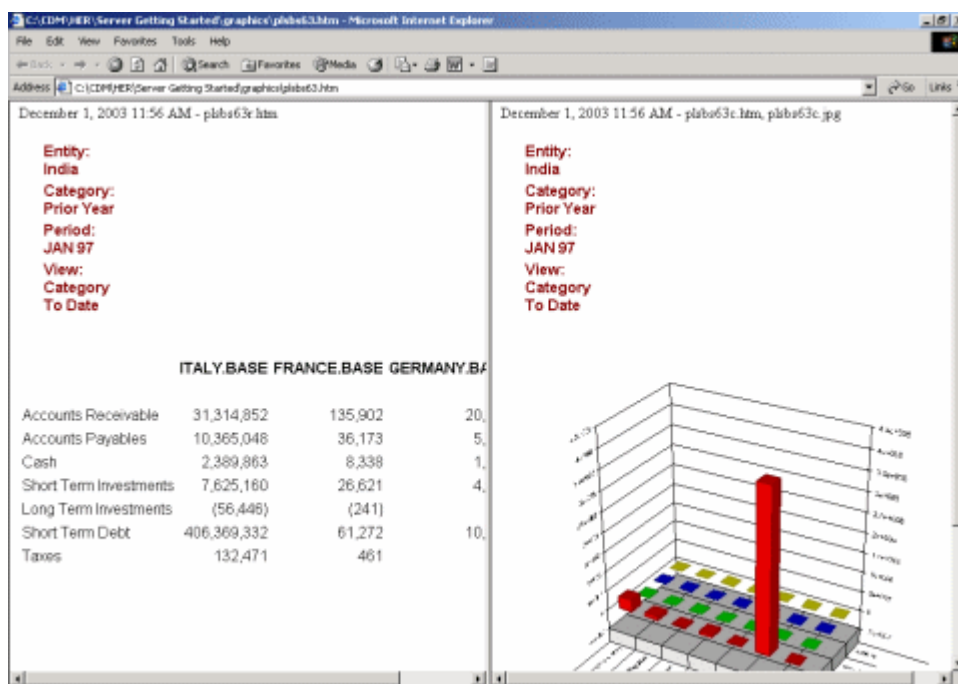
| Hyperion Enterprise® Reporting | | | |
|-----------------------------------|--------|--------|------------|
| Home Enterprise Logoff Help | | | |
| | Actual | Budget | % Variance |
| Gross Sales | 15,440 | 13,107 | 17.8% |
| Cost of Goods Sold | 4,599 | 4,249 | (8.2%) |
| Gross Margin | 10,841 | 8,858 | 22.4% |
| Marketing Expense | 1,456 | 1,386 | (5.1%) |
| R & D Expense | | 0 | |
| General & Admin Exp | | 0 | |
| Operating Expenses | 3,787 | 3,482 | (8.8%) |
| Total Expense | 5,243 | 4,868 | (7.7%) |
| Operating Income | 5,598 | 3,990 | 40.3% |
| Interest Inc/(Exp) | 109 | (60) | 281.7% |
| Translation Gain /(Loss) | | 0 | |
| Pre-Tax Income | 5,707 | 3,930 | 45.2% |
| Taxes | 830 | 226 | (267.3%) |
| Net Income | 4,877 | 3,704 | 31.7% |

フレームを使用しない動的レポートとチャートはレポートページの上部にデータの視点リンクが組み込まれています。レポートを縦と横にスクロールすると画面からリンクが消え、印刷では、レポートの上部に印刷されます。

並列表示のレポートとフレーム

レポートとチャートを並列に表示するには、HTML フレームが必要になります。並列に表示されたレポートとチャートは、左右のフレームに分かれており、各フレームに異なるレポートかチャートが示されます。フレーム上部には、データの視点オプションが含まれます。次の図に、並列表示のレポートを示します。

図 4 並列表示のレポートの例



フレーム設計上の考慮事項

すべてのブラウザが HTML フレームをサポートするわけではないため、ユーザが使用するブラウザを考慮してアプリケーションを設計する必要があります。フレームをサポートしていないブラウザでは、フレームを使用するレポートやチャートが表示されません。レポートやチャートへのハイパーリンクを作成するときに、フレームを使用するかどうかを指定します。

複合レポート

Hyperion Enterprise Reporting Web では、複合レポートとチャートを作成できます。

複合レポートには、2 つ以上の動的または静的レポートあるいはチャートが組み込まれています。複数のレポートやチャートを組み込んで、左右または上下に表示することができます。動的複合レポートは、フレーム付きまたはフレームなしで表示することができます。静的複合レポートは、グリッド線付きまたはグリッド線なしで表示することができます。次の図に、一般的な複合レポートを示します。

| | Actual D1C1BR1 | | Lastyr D1C1BR1 |
|-------------------------------|-------------------|-------------------------------|-------------------|
| Sales | 14,247 | Sales | 17,870 |
| Balance | 21,278 | Balance | 2,669 |
| Cost of Goods | 3,481 | Cost of Goods | 1,033 |
| Net Income | 426 | Net Income | 17,511 |
| Cash | 22,403 | Cash | 10,869 |
| Total Assets | 15,914 | Total Assets | 14,959 |
| Total Liability | 8,444 | Total Liability | 17,462 |
| Retained Earning Beginning | 21,860 | Retained Earning Beginning | 29,676 |
| Retained Earning Current year | 15,579 | Retained Earning Current year | 10,451 |
| Retained Earning Ending | 5,922 | Retained Earning Ending | 11,879 |

User : administrator System : Enterprise6 Application : Devall63

Hyperion Enterprise Reporting Web の機能

Hyperion Enterprise Reporting Web には、Hyperion 製品からのデータ取得を制御する以下の機能が含まれます。

- 管理プログラム
- Web サイトウィザード
- お気に入り
- Link Builder
- 動的レポート
- 静的レポート
- パッケージ
- チャート
- 調査と展開
- 基準ベースのページ
- 財務エージェント
- 書式設定
- テンプレート
- データの視点
- ハードコピー用 PDF レポート
- データ入力モード
- レポートライブラリ

管理プログラム

管理プログラムを使用すると、メモリにアプリケーションを事前に読み込むかどうかや、システムから LAN にアクセスできるかどうかなど、システムのセキュリティやシステムオプションを設定できます。セキュリティについては、[第 5 章「セキュリティの設定」](#)を参照してください。

次の図に、管理プログラムを示します。

図 5 管理プログラム



Web サイトウィザード

Web サイトウィザードは、HTML ファイルの作成や編集を手動で行わなくても、組織の Web サイトをすばやく簡単に設定できるようにするものです。Web サイトウィザードでは、会社に関するものや、Web サイトに含める情報の種類など、一連の質問が表示されます。これらの質問に対する回答によって、Web サイトのコンテンツと外観が決められます。

Web サイトウィザードで作成される Web サイトは、Microsoft FrontPage の Web サイトです。Web サイトウィザードを実行する前に、システムに Microsoft FrontPage 2000 をインストールしておく必要があります。ウィザードで Web サイトが作成されたら、Microsoft FrontPage で Web サイトを開いて編集することができます。

お気に入り

Hyperion Enterprise Reporting Web のお気に入りにより、個々のユーザが、ドメイングループなどのユーザグループのために Web ページを設定することができます。1 ページに、使用頻度の高い動的レポートテンプレートやチャートを、リンクまたは組み込み項目として追加することができます。さまざまなユーザに複数

のリンクページを設定して、これらを 1 つの URL で発行することもできます。お気に入りページを作成するには、Hyperion Enterprise Reporting Web の Web サイトウィザードまたはテンプレートを使用します。テンプレートを使用する場合は、Microsoft FrontPage や他の HTML エディタで編集できます。

お気に入りの使用方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting Web 管理者用リファレンスガイド』を参照してください。

Link Builder

システム内のレポートとチャートへのリンクを事前定義した Web ページを作成するには、Link Builder を使用します。例えば、すべての年度末レポートを表示するページを作成するために Link Builder を使用できます。

動的レポート

動的レポートとは、ユーザのリクエストに応じて作成されるものです。ユーザが動的レポートにアクセスした時点で、レポートが開かれ、関連アプリケーションからの現在のデータが取得されます。動的に作成されたレポートには、ページの上部にデータの視点リンクが表示されるため、ユーザはこれによりデータの視点を変更することができます。Hyperion Enterprise Reporting を使って作成されたレポートに対して、動的レポートページを作成できます。

静的レポート

静的レポートとは、ユーザからのリクエスト前に作成され、Web サーバに HTML ファイルとして保存されているものです。静的レポートのデータは、表示のたびに変更されるわけではありません。静的レポートでは、データの視点を変更して別のデータを表示することができません。

注： パッケージの一部として作成された静的レポートの場合は、示されるデータの視点オプションが限られています。

Hyperion Enterprise Reporting を使って作成されたレポートに対して、静的レポートページを作成できます。静的レポートページを設定するには、管理プログラムを使用して Hyperion レポートまたはパッケージを静的 HTML ファイルに変換します。

注： データの視点バーが表示されるのは、パッケージの一部として作成された静的レポートのみです。個別に作成された静的レポートとチャートは、1 つのデータの視点に対して作成されているもので、データの視点値を変更するオプションが与えられません。

パッケージ

パッケージにより、一連の静的レポートを一度に印刷できます。Hyperion Enterprise Reporting Web では、これらの Hyperion Enterprise Reporting パッケージに関連する

一連の静的レポートかチャートに変換することができます。Hyperion Enterprise Reporting Web を使って作成した各静的パッケージには、パッケージに含まれるすべてのレポートかチャートを一覧にした目次のハイパーテキストが表示されます。

パッケージの一部として作成された静的レポートには、データの視点バーが表示されるため、ユーザはこれによりデータの視点を変更することができます。ユーザが選択できるのは、パッケージのレポートの作成に使われたデータの視点要素（ディメンションまたはキーともいう）値のみです。

チャート

Hyperion Enterprise Reporting Web では、Hyperion レポートからチャートを作成して、Web ページに表示することができます。ユーザが選択するたびにチャートを動的に作成するためのリンクを作成したり、レポートをチャートに変換して静的 HTML ページとして保存することができます。

Hyperion Enterprise Reporting Web のデフォルトでは、Visual Components First Impression チャート作成ツールを使用してレポートデータをチャートにします。このチャート作成ツールは、Hyperion Enterprise Reporting Web に含まれています。オプションとして、Microsoft Excel をチャート作成ツールに指定することもできます。このオプションを使用するには、サーバに Microsoft Excel をインストールする必要があります。

調査と展開

レポートに含める情報により詳しい内容を付け加えるには、調査と展開を使用します。調査を使用すると、レポート内の項目を選択して、より詳しい内容の関連レポートまでドリルダウンすることができます。展開を使用すると、サマリーレベルの行か列を選択し、関連する詳細を表示できます。

基準ベースのページ

取得するデータに応じて表示要素が異なる Web ページを作成するには、条件ベースのページを使用します。これには、データ条件と、これらの条件が満たされた場合に行う操作の定義を含む条件スクリプトを作成します。データが取得されると、何らかの条件が満たされているかどうかの評価が行われ、それに応じて表示書式が設定されます。

財務エージェント

財務エージェントとは、オラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアのデータ変更をチェックするための自動方法です。アプリケーションのデータを定期的にチェックして、特定の条件が存在するかどうかを確認するには、財務エージェントを作成します。例えば、データをチェックして製品ラインの千個あたりの欠陥数が決められている許容値を超えるかどうかを確認するために財務エージェントを作成することが考えられます。ユーザは、利用できる財務エージェントの一覧から興味のあるエージェントを登録します。

エージェントを作成すると、指定したタイミングでアプリケーションのデータがチェックされます。エージェントによりチェック対象の条件の存在が確認されると、登録されているすべてのユーザに通知が出されます。

書式設定

Hyperion Enterprise Reporting Web により作成されるレポートとチャートは、HTML 規格に準じており、HTML バージョン 2.0 以降をサポートする Web ブラウザであれば正確に表示されるはずです。Hyperion Enterprise Reporting Web では、Hyperion Enterprise Reporting で定義された書式が維持されますが、HTML の書式設定機能が Hyperion Enterprise Reporting と完全に一致するわけではありません。このため、一部の書式が Hyperion Enterprise Reporting と異なる書式で Web ブラウザに表示されることも、表示されないこともあります。

テンプレート

Hyperion Enterprise Reporting Web では、テンプレートファイルを使用して、静的および動的 Web ページの外観を制御できます。テンプレートファイルは標準 HTML 形式のファイルで、テキストエディタか HTML エディタで変更することができます。例えば、他の Web サイトへのリンクの追加、会社のロゴの追加、背景色の変更、レポートデータへのグリッド線の追加などを行うことができます。テンプレートに加える変更は、そのテンプレートを使用するすべてのレポート、チャート、またはパッケージに反映されます。

注： .spx ファイルは、新しいユーザインターフェイス用に更新されているもので、.htx ファイルと同じ機能を持ちます。下位互換性を維持するために、両ファイルがインストールされています。

データの視点

Hyperion Enterprise Reporting Web のレポートまたはチャートは、Hyperion Enterprise アプリケーションの財務データを特定のデータの視点から捕らえたものです。レポートまたはチャートのデータの視点は、画面上部のデータの視点バーに表示されます。データの視点バーには、アプリケーションのデータの視点の各ディメンション（要素またはキーとも呼ばれます）に対するリンクが表示されます。次の図に、Hyperion Enterprise アプリケーションのレポートのデータの視点バーを示します。

図 6 レポートのデータの視点バー

| | | | | | |
|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|----------------|
| Point of View: | INDIA | ACTUAL | DEC 99 | M.YTD | SALESEE |
|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|----------------|

データの視点バーを使って、アプリケーションのデータの視点を変更できます。例えば、図 6 のように、India というエンティティと Actual というデータ種別の損益計算書にアクセスしたら、データの視点バーを使用して、Budget データ種別の Canada のデータを表示するよう変更することができます。

さらに、データの視点の変更時にそのディメンションでフィルタすることもできます。例えば、エンティティの視点をフィルタして、親エンティティのみを表示することができます。

動的レポートには、必ずデータの視点バーが表示されます。静的レポートは1つのデータの視点に関して作成されているもので、データの視点バーは表示されません。パッケージの一部として作成された静的レポートの場合は、示されるデータの視点オプションが限られています。

PDF レポート

Hyperion Enterprise Reporting Web では、Adobe の Portable Document Format (PDF) を使用することにより、動的および静的レポートやパッケージを文書形態で表示して、印刷できます。これによりユーザは、作成されたリンクを使用して、レポートまたはパッケージを Adobe Acrobat Reader により PDF ファイルとして印刷することができますようになります。PDF ファイルでは、Hyperion Enterprise Reporting で定義されたレポートの書式が維持されます。

データ入力モード

データ入力モードにより、ユーザはインターネットまたはイントラネットを介して標準 HTML により Hyperion Enterprise Reporting Web レポートを編集できます。データ入力モードのレポートは、デフォルトではグリッド線付きで表示され、Hyperion Distributed Schedules のセルの色でセルステータスが示されます。ユーザはデータの切り取り、コピー、およびセルへの貼り付けを行ってから、再計算して変更の効果を確認することができます。その後で、変更を保存するかどうかを選択できます。

Hyperion Enterprise Reporting Web のレポートライブラリ

Hyperion Enterprise Reporting Web のレポートライブラリにより、各レポートに対するリンクを作成しなくても、ユーザがすべての Hyperion レポートにアクセスすることができるようになります。ユーザは、Web サーバの各 Hyperion Enterprise アプリケーションのレポートセットとレポートの一覧を表示することができます。このレポート一覧からレポートを直接実行できます。

Hyperion Enterprise アプリケーションのレポートライブラリに表示される製品、アプリケーション、レポートセット、およびレポートの一覧は動的に作成されます。アプリケーションを更新すると、レポートライブラリにもこれらの変更が反映されます。例えば、Hyperion Enterprise の Sales アプリケーションで Profit and Loss セットに Income というレポートを追加した場合、ユーザが次回そのセットに対するリンクを選択すると、Web ページでは Profit and Loss セットに Income が示されます。

Hyperion Enterprise Reporting Web のライブラリ機能により、ニーズに合わせてレポートライブラリをカスタマイズできます。例えば、アプリケーションから選択した一部のセットのみを表示する Web ページを作成できます。

この章の内容

| | |
|-------------------------|----|
| マニュアルの『情報マップ』 | 23 |
| セットアップガイド | 24 |
| 管理者用リファレンスガイド | 24 |
| テクニカルリファレンスガイド | 24 |
| ユーザガイド | 24 |
| オンラインヘルプ | 24 |
| インストールガイドと Readme | 24 |

Hyperion Enterprise Reporting Web の今回のリリースに含まれるマニュアルには、以下の改善点が加えられています。

- 今回のリリースには、情報に簡単にアクセスできるようオンラインの『情報マップ』が追加されており、すべてのオンラインガイドとオンラインヘルプにワンクリックでアクセスできます。
- 今回のリリースでは、管理者用ガイドが次の 3 冊のガイドに分かれています。
 - 『Hyperion Enterprise Reporting Web セットアップガイド』
 - 『Hyperion Enterprise Reporting Web 管理者用ガイド』
 - 『Hyperion Enterprise Reporting Web テクニカルリファレンスガイド』

これら 3 冊のガイドはすべて PDF ファイルで入手できます。PDF ファイルは印刷版マニュアルのオンラインバージョンで、Adobe Acrobat Reader で表示および印刷します。PDF ファイルを使用すれば、オンラインヘルプシステムに含まれる情報を簡単に印刷できます。

- Hyperion Enterprise Reporting Web 管理プログラムには、タスクの実行に役立つオンラインヘルプが含まれます。オンラインヘルプには、製品ソフトウェアからアクセスするか、Windows の必要な HTML ヘルプシステムファイルを実行してアクセスします。オンラインヘルプでは、一度に 1 つのトピックを表示および印刷したり、ヘルプコンテンツの特定の章を印刷したり、リファレンスガイドの概念的に関連するトピックに直接ジャンプして詳細を確認したりすることができます。

マニュアルの『情報マップ』

オンラインの『情報マップ』には、管理プログラムのオンラインヘルプからアクセスすることができます。

セットアップガイド

Hyperion Enterprise Reporting Web には PDF のオンラインガイドとして『セットアップガイド』が含まれています。『セットアップガイド』には、システムの設定、セキュリティ、および今回のリリースの新機能に関して、高レベルの導入情報が記載されています。

管理者用リファレンスガイド

『管理者用ガイド』には、Hyperion Enterprise Reporting Web で会社の Web サイトの作成と管理を行うために必要な情報が記載されています。

テクニカルリファレンスガイド

『Hyperion Enterprise Reporting Web テクニカルリファレンスガイド』には、Hyperion Enterprise Reporting Web で使用できる機能、表とオブジェクトに関する技術情報が記載されています。さらに、トラブルシューティングと spider.ini ファイルについても説明しています。『テクニカルリファレンスガイド』は PDF のオンラインガイドおよび HTML のマニュアルとして入手可能です。

ユーザガイド

Hyperion Enterprise Reporting Web には、HTML 形式の『ユーザガイド』が含まれています。『ユーザガイド』には、Hyperion Enterprise Reporting Web の使用手順が記載されています。このガイドにアクセスできるようにするために、Hyperion Enterprise Reporting Web のホームページにこのガイドへのリンクを配置してください。『ユーザガイド』は HTML 形式であるため、テキストエディタか HTML エディタでガイドを編集し、アプリケーションに合わせてカスタマイズすることができます。

『ユーザガイド』はフレーム付きかフレームなしで表示することができます。サイトには、使用するブラウザに適したバージョンのものにリンクを設定することができます。フレームバージョンには userfr.htm を、フレームを使用しないバージョンには user.htm をそれぞれ指定します。

オンラインヘルプ

管理プログラムには、オンラインヘルプが含まれています。オンラインヘルプでは、段階的な手順、プログラムのダイアログボックスとコントロールについて説明します。

インストールガイドと Readme

『インストールガイド』には、Hyperion Enterprise Reporting Web をインストールするための段階的全手順が記載されています。Readme には、今回のリリースに関する

る重要な情報が記載されています。Hyperion Enterprise Reporting Web を使い始める前に必ずお読みください。

4

システムの設定

この章の内容

| | |
|---------------------------------------|----|
| 管理プログラムでのシステムレベルオプションの設定..... | 27 |
| Spider.ini ファイルのシステムレベルオプションの設定 | 37 |
| repeng.ini ファイルのシステムレベルオプションの設定 | 51 |
| カスタムファイルのパスの指定 | 56 |
| エージェントモニタの設定..... | 58 |

Hyperion Enterprise Reporting Web システムを設定するには、システムがどのように動作するかを制御するシステムレベルのオプションを定義します。システムを設定するには、以下のタスクを実行します。

- 管理プログラムでシステムレベルのオプションを設定
- spider.ini ファイルにシステムレベルのオプションを設定
- システムレジストリにカスタムファイルのパスを指定
- エージェントモニタを設定

次の項では、これらのオプションについて詳しく説明します。spider.ini ファイルの概要については、『Hyperion Enterprise Reporting Web テクニカルリファレンスガイド』の「Spider.ini ファイルについて」の章を参照してください。

注： システムレベルのオプションを設定した後は、Web サーバサービスを再起動する必要があります。

管理プログラムでのシステムレベルオプションの設定

管理プログラムでは、次のタスクのオプションを設定できます。

- アプリケーションの事前読み込み
- LAN 上の Hyperion アプリケーションデータへのアクセス
- 管理パスワードの変更
- PDF 印刷の設定
- データの視点バーでの長い名前の使用
- デフォルトでの行と列の見出しの保護
- すべてのレポートに対するデータ入力モードの有効化

- デフォルトブラウザの設定
- レポートの特殊文字の HTML への変換
- ユーザ定義のお気に入りの設定
- セキュリティの設定

アプリケーションの事前読み込み

全体的なパフォーマンスを向上させるため、Hyperion Enterprise アプリケーションを事前にメモリに読み込むことができます。事前読み込みオプションを使用すると、ユーザが初めてこれらのアプリケーションのいずれかにアクセスしたときに、指定されたすべてのアプリケーションの .DLL ファイルがメモリに読み込まれます。その後のユーザは、.DLL ファイルが読み込まれるまで待つ必要がありません。

- ▶ Hyperion Enterprise アプリケーションを事前に読み込むには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択して管理プログラムにアクセスします。

注： [プレロード] オプションを設定するには、Web サーバで Hyperion Enterprise Reporting 管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [プレロード] タブから、次のいずれかの操作を行います。
 - アプリケーションを追加するには、[追加] を選択してアプリケーションを選択し、ユーザ ID とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
 - アプリケーションを削除するには、削除したいアプリケーションを選択し、[除去] を選択します。
 - 設定したオプションをクリアするには、[プロファイルのクリア] を選択します。

LAN 上の Hyperion Enterprise アプリケーションデータへのアクセス

Hyperion Enterprise Reporting Web では、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ以外のネットワークデバイスに保存されている Hyperion Enterprise アプリケーションにアクセスできます。これらの他のアプリケーションにアクセスするには、システムに対してそのアプリケーションが保存されているネットワークデバイスへの適切なアクセス権を設定する必要があります。このプロセスには次のいくつかの手順があります。

- 管理プログラムでユーザ名設定を行い、ホスト Windows サーバにログオンし、アプリケーションが保存されているネットワークデバイスにアクセスするた

めに使用するユーザ ID およびパスワードを Hyperion Enterprise Reporting Web に設定します。Windows NT とネットワークデバイスとも、同じ ID およびパスワードを使用する必要があります。

- Universal Naming Conventions (UNC : ユニバーサル命名規則) に従って、Web サーバに保存されている各製品の INI ファイルのパス名を編集します。各製品のアプリケーション INI ファイルの編集方法については、オラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアに付属しているマニュアルを参照してください。UNC 名の形式は次のとおりです。

\\Servername\Volumename\Path\File

| 変数 | 説明 |
|------------|-----------------|
| Servername | ホストサーバの名前 |
| Volumename | サーバ上の共用ボリュームの名前 |
| Path | ディレクトリへのフルパス |
| File | アクセスするファイルの名前 |

この例では、Hyperion Enterprise の Sales アプリケーション用の HYPENT.INI ファイルのパスを指定する方法を示します。この例では、FINANCE サーバの VOL1 の ENTERPRISE ディレクトリにアプリケーションが保存されています。

AppPath = \\FINANCE\VOL1\ENTERPRISE\SALES

ネットワークアクセス用に設定されたユーザ ID とパスワードをエージェントサービスに設定します。

- ▶ LAN 経由で Hyperion Enterprise アプリケーションデータにアクセスするには、次の操作を行います。

- 1 Novell サーバにログオンして、NT コンピュータに設定されているものと同じ ID とパスワードをセットアップします。両システムとも、同じ ID およびパスワードを設定する必要があります。
- 2 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 3 [オプション] を選択します。
- 4 [ネットワーク] タブで、[Hyperion Enterprise(R) Reporting Web Server Administrator に他のネットワークデバイスへのアクセスを可能にする] を選択します。
- 5 ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

PDF 印刷の設定

Hyperion Enterprise Reporting Web では、レポートを Adobe PDF 形式で保存して、Adobe Acrobat Reader から PDF ファイルを表示および印刷できます。PDF 印刷に使うプリンタの設定は、[Administration Options (管理オプション)] ダイアログボックスの [印刷] タブに示されます。

Adobe PDF Writer をインストールする必要があります。

注： [印刷] タブに示される設定は、Hyperion Enterprise Reporting Web の PDF プリンタの設定で、オペレーティングシステムのものではありません。

► PDF 印刷を設定するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [印刷] タブを選択します。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - [ドライバ] 編集ボックスに表示されたプリンタドライバが正しいことを確認します。
 - [ドライバ] 編集ボックスに表示された印刷スプーリングデバイスが正しいことを確認します。
 - [ポート] 編集ボックスに表示されたプリンタポートが正しいことを確認します。
- 5 表示されたプリンタドライバが正しくないと思われる場合、[ドライバを参照] を選択して、システムに設定できるプリンタドライバの一覧を表示します。Adobe Acrobat PDF Writer プリンタドライバを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [設定の上書き] を選択して、システムレジストリのデフォルトプリンタ設定を新しい設定に置き換えます。
- 7 [更新] を選択して変更内容を保存し、[OK] をクリックします。

PDF の印刷方法

Hyperion Enterprise Reporting Web では、次のいずれかの方法で PDF ファイルを作成します。

- デフォルトの方法
- リリース 3.0 の方法
- 代替方法

デフォルトの方法

PDF ファイルを作成するために、Web ブラウザから Hyperion Enterprise Reporting サーバにリクエストが送られます。デフォルトでは、Hyperion Enterprise Reporting サーバからリクエストされた PDF ファイルが Web ブラウザに直接送られます。このファイルはサーバに残りません。

リリース 3.0 の方法

この方法では、Web ブラウザから PDF ファイルがリクエストされると、Hyperion Enterprise Reporting サーバからブラウザに応答が返されます。この応答により、サーバ上の PDF ファイルの位置がブラウザに伝えられて、ブラウザにファイルが読み込まれます。このファイルは、一定間隔で行われるクリーンアップ時に削除されるまで、Hyperion Enterprise Reporting サーバに残ります。デフォルトのクリーンアップ間隔は 24 時間です。

注： この方法では、レポートが 3 回にわたって実行され、各 PDF リクエストに対して 3 つの PDF ファイルが作成される可能性があります。

代替方法

この方法では、Web ブラウザから PDF ファイルがリクエストされると、Hyperion Enterprise Reporting サーバからブラウザに HTML ファイルが返されます。HTML ファイルには Javascript が含まれ、これによりリクエストされた PDF ファイルが直ちに読み込まれて、バックシーケンスから HTML ファイルが削除されます。Javascript をサポートしないブラウザでは、PDF ファイルへのハイパーリンクが表示されます。この場合、一定間隔で行われるクリーンアップ時に削除されるまで、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバにファイルが残ります。デフォルトのクリーンアップ間隔は 24 時間です。

PDF 印刷方法の変更

- ▶ PDF の印刷方法を変更するには、次の操作を行います。
- 1 デフォルト PDF 印刷方法（サーバにファイルが残らない方法）を使用するには、何もする必要はありません。Hyperion Enterprise Reporting Web ではこの方法がデフォルトで使用されます。
- 2 リリース 3.0 の PDF 印刷方法を使用するには、**spider.ini** ファイルの[Options]セクションに次の行を追加します。

```
PDFFile=1
```

- 3 別の PDF 印刷方法を使用するには、**spider.ini** ファイルの[Options]セクションに次の行を追加します。

```
PDFFile=2
```

データの視点バーでの長い形式の名前の使用

Hyperion Enterprise Reporting Web のデフォルトでは、レポートのデータの視点バーにディメンションのラベル名 (ID) が表示されます。エンドユーザにとって Hyperion Enterprise アプリケーションのディメンションの説明の方がわかりやすいければ、すべての Hyperion Enterprise Reporting Web レポートで、データの視点バーにディメンションの説明が表示されるよう選択することができます。この設定を変更するオプションは、[Administration Options (管理オプション)] ダイアログボックスの [オプション] タブにあります。

例えば、ラベル名が GAEXP で、説明が General and Administrative Expenses という勘定科目をアプリケーションで使用するとします。デフォルトでは、このディメンションを使用するすべてのレポートのデータの視点バーに GAEXP というラベル名が表示されます。管理プログラムの設定を変更して説明を使用するようにした場合、このディメンションを使用するすべてのレポートのデータの視点バーに General and Administrative Expenses という説明が表示されるようになります。

▶ データの視点バーで説明を使用するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [レポートオプション] タブを選択します。
- 4 [データの視点バーでラベル名でなく説明を使用する] を選択し、[OK] をクリックします。

すべてのレポートの行と列の見出しの保護

Hyperion Enterprise Reporting Web では、Web ブラウザでレポートを表示するときにユーザがスクロールしても画面上に行と列の見出しが残るようにすることができます。[Administration Options (管理オプション)] ダイアログボックスの [レポートオプション] タブでオプションを設定することにより、すべての Hyperion Enterprise Reporting Web レポートの行と列の見出しを保護することができます。

すべてのレポートではなく、一部のレポートの行と列の見出しを保護する場合、次のいずれかの操作を行います。

- 特定の静的レポートか静的パッケージの出力オプションを指定するときに、[行見出しおよび列見出しの保護] チェックボックスをオンにします。
- レポートの REPORT 関数に lockhdrs=yes を指定します。管理プログラムの設定を上書きして、一部のレポートの行と列の見出しを保護しないようにする場合には、これらのレポートの REPORT 関数に lockhdrs=no を指定します。

注： 行と列の見出しの保護は、Microsoft Internet Explorer 6.0 以降と Mozilla Firefox 2.0.x のみで有効です。複合レポートの行と列の見出しを保護することはできません。

➤ すべてのレポートの行と列の見出しを保護するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [レポートオプション] タブを選択します。
- 4 [行見出しおよび列見出しの保護] を選択し、[OK] をクリックします。

すべてのレポートのデータ入力モードの有効化

データ入力モードにより、エンドユーザはインターネットまたはイントラネットを介して標準 HTML により Hyperion Enterprise または Hyperion OLAP アプリケーションでデータを編集し、保存することができます。管理プログラムの [レポートオプション] タブでオプションを設定すれば、すべての Hyperion Enterprise Reporting Web レポートに対してデータ入力モードを有効化することができます。

このオプションを選択した場合は、[DATAENTRY] 関数を使用してデータ入力モードでレポートを表示できます。このオプションを選択しないと、[DATAENTRY] 関数を使用してデータ入力モードでレポートを表示することはできません。

➤ すべてのレポートのデータ入力モードを有効化するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [レポートオプション] タブを選択します。
- 4 [Allow data entry mode (データ入力モードを許可)] を選択し、[OK] をクリックします。

デフォルトブラウザの設定

Hyperion Enterprise Reporting Web では、すべてのレポートにデフォルト Web ブラウザを設定するか、システムにより Web ブラウザが自動的に検出されるようにす

ることができます。[Administration Options (管理オプション)] ダイアログボックスの [レポートオプション] タブでオプションを設定することにより、デフォルト Web ブラウザを設定できます。

次のいずれかのブラウザタイプを指定します。

- 自動検出
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
- Mozilla Firefox 2.0.x 以降

[自動検出] オプションを選択すると、Hyperion Enterprise Reporting Web で使用している Web ブラウザが自動的に検出されるようになります。すべてのレポートに Microsoft Internet Explorer 6.0 以降か Mozilla Firefox 2.0.x 以降を使用している場合は、これらのいずれかを選択でき、Microsoft Internet Explorer 6.0 以降か Mozilla Firefox 2.0.x 以降以外のブラウザを使用する場合は [その他] を選択できます。

特定の静的レポートまたは静的パッケージのすべてのレポートに対してブラウザを設定することもできます。これを行うには、特定の静的レポートか静的パッケージの出力オプションを指定するときに、ブラウザを選択します。

➤ デフォルトブラウザを設定するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [レポートオプション] タブを選択します。
- 4 次のいずれかの操作を行い、[OK] をクリックします。
 - Hyperion Enterprise Reporting Web で使用している Web ブラウザが自動的に検出されるようにするには、[Format reports (レポートの書式設定)] ドロップダウンリストから [自動検出] を選択します。
 - すべてのレポートを Microsoft Internet Explorer 6.0 以降に合わせて書式を設定するには、[Format reports (レポートの書式設定)] ドロップダウンリストから [Microsoft Internet Explorer 6.0 以降] を選択します。
 - すべてのレポートを Mozilla Firefox 2.0.x 以降に合わせて書式設定するには、[Format reports (レポートの書式設定)] ドロップダウンリストから [Mozilla Firefox 2.0.x or higher (Mozilla Firefox 2.0.x 以降)] を選択します。

レポートの特殊文字の HTML への変換

Hyperion Enterprise Reporting Web では、HTML ガイドラインに沿ったエンコードにより次の特殊文字を取り扱うことができます。

スペース タブ ! @ # % ^ * & () - [] + = ~ { } > < ? ` ' | , / \ \$;

Hyperion Enterprise Reporting で作成された Hyperion Enterprise アプリケーションのレポートの見出し、行と列の見出し、または Hyperion DataExtend フィールドにこれらのいずれかの特殊文字が含まれる場合、Hyperion Enterprise Reporting Web 管理プログラムの [レポート内の特殊文字を HTML コードに変換] チェックボックスをオンにして HTML コードに自動変換することができます。このオプションは、[Administration Options (管理オプション)] ダイアログボックスの [特殊文字] タブにあります。

さらに、レポートの見出し、行と列の見出し、または Hyperion DataExtend フィールドに HTML タグを直接組み込むこともできます。例えば、レポートの見出しに <A HREF> HTML タグを使ってハイパーリンクを組み込むことができます。ただし、レポートの特殊文字を HTML コードに変換する場合、Hyperion Enterprise Reporting Web では、HTML タグの特殊文字(<と>)が HTML コードに変換されるため、Hyperion Enterprise Reporting レポートのハイパーリンクが機能しなくなります。この問題を避けるには、レポートの HTML タグを例外として指定することにより、その一部が変換されないようにすることができます。

[レポート内の特殊文字を HTML コードに変換] チェックボックスをオンにすると、[例外] リストに指定されている特殊文字と HTML タグを除く、レポートやレポート見出しのすべての特殊文字が HTML コードに変換されます。Hyperion Enterprise Reporting Web のデフォルトでは、チェックボックスをオンにすると、次のものが例外として一覧に示されます。

```
<A HREF=*>  
</A>  
<IMG SRC=*>
```

これらデフォルトの例外を変更、削除したり、一覧に他の例外を追加したりすることができます。1 つまたは複数の文字に対するワイルドカードとして、アスタリスク (*) を使用できます。アスタリスクで置き換えられたものをはじめとして、例外に一致するレポートの特殊文字は、Hyperion Enterprise Reporting Web では HTML コードに変換されません。

[レポート内の特殊文字を HTML コードに変換] チェックボックスをオフにすると、レポートやレポート見出しの特殊文字が HTML コードに変換されることはありません。Hyperion Enterprise Reporting で作成された Hyperion Enterprise アプリケーションのレポートに特殊文字が含まれていない場合は、[レポート内の特殊文字を HTML コードに変換] チェックボックスをオフにしてください。

➤ レポートの特殊文字を HTML に変換するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [特殊文字] タブを選択します。

- 4 レポートの特殊文字を HTML コードに変換するには、[レポート内の特殊文字を HTML コードに変換] チェックボックスをオンにします。
- 5 [例外] リストに項目を追加するには、次の操作を行います。
 1. [追加] をクリックします。
 2. Hyperion Enterprise Reporting Web で HTML コードに変換したくない特殊文字、または特殊文字を含んでいる HTML タグを入力し、[OK] をクリックします。

ヒント： 1 つまたは複数の文字に対するワイルドカードとして、アスタリスク (*) を使用できます。
- 6 [例外] リストの項目を変更するには、次の操作を行います。
 1. [例外] リストから特殊文字または HTML タグを選択し、[修正] を選択します。
 2. 変更を入力し、[OK] をクリックします。
- 7 [例外] リストから項目を削除するには、リストから項目を選択して [除去] を選択します。

お気に入りの設定

- お気に入りを設定するには、次の操作を行います。
- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。
- 注：** このオプションを設定するには、Web サーバで管理プログラムを実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。
- 2 [オプション] を選択します。
 - 3 [お気に入り] タブを選択します。
 - 4 ユーザ定義のお気に入りの .htm ファイルを格納するディレクトリを選択します。
- 注：** ディレクトリのパスを変更するには、[参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択し、[OK] をクリックします。
- 5 ユーザメンバ名が関連付けられた .htm ファイル (<user>.htm など) がない場合は、ユーザが属するグループのグループお気に入りファイルがリストボックスに表示されている順番で検索されます。上下矢印ボタンを使用して、グループの階層順を変更できます。
- 注：** ユーザが複数のグループに属する場合は、リストの最初にあるグループのユーザ定義のお気に入りファイルが表示されます。グループをドメインから追加することができます。

- 6 グループとユーザの一覧にドメイングループを追加するには、[ドメイングループの追加] を選択し、グループを追加するドメインの名前を入力し、[OK] をクリックします。

注： グループの一覧にドメイングループを追加した後、お気に入りファイルが入っているディレクトリに、ドメイン名を使用してサブディレクトリを作成します。ドメイン名のお気に入りファイルは、このサブディレクトリに保管されます。

- 7 ドメイングループを削除するには、[ドメイングループの削除] を選択し、削除するドメインの名前を入力し、[OK] をクリックします。

注： ドメイン内のすべてのグループが削除されます。

- 8 お気に入りページが他のページに組み込まれている場合に<HTML>、<HEAD>、および<BODY>タグが削除されないようにするには、[お気に入りをテンプレートに埋め込むときに余分な HTML タグを削除] チェックボックスをオフにします。

注： これらのタグは、Microsoft FrontPage や他のエディタでお気に入りファイルを作成したり編集したりできるようにするために削除されます。このオプションをオフにすると、組み込まれたお気に入りページがブラウザで正確に表示されない場合があります。

- 9 [OK] をクリックして変更を保存します。

セキュリティの設定

管理プログラムでセキュリティを設定して、特定タイプのデータへのユーザのアクセスを制御することができます。設定できるオプションは以下のとおりです。

- 特定システムとアプリケーションの保護されていないデータに対するアクセスを禁止
- 管理プログラムへのアクセスに使用するパスワードを変更
- どのユーザが財務エージェントにアクセスできるかを制御

これらのオプションの設定方法については、[63 ページの「管理プログラムのセキュリティ設定」](#)を参照してください。

Spider.ini ファイルのシステムレベルオプションの設定

spider.ini ファイルには、以下のシステムレベルオプションを設定できます。

- データの視点
- スマートなデータの視点
- 保護データのみを表示
- エージェント
- マルチスレッドオプション
- PDF の印刷方法

- ログファイル?
- レポートのキャッシュ?
- ログオンのキャッシュ
- 画像のクリーンアップ間隔

spider.ini ファイルは、Hyperion Enterprise Reporting アプリケーションにアクセスしている各ユーザにより同時に使用されます。競合を防ぐため、使用中のユーザがいなくなるときのこのファイルを更新する必要があります。例えば、このファイルを開いた後に、使用中のユーザがデータの視点を変更し、その後ファイルに変更を加えて保存すると、ファイルが開いている間にユーザが加えたデータの視点への変更が失われてしまいます。

構文

- spider.ini ファイルのオプションの構文では大文字小文字の区別をしません。
- オプションには余分なスペースを使用しないでください。例えば、次のオプションにはスペースを使用しません。

```
ImageCleanupInterval=2
```

- コメントの先頭にはセミコロンを使用します。例えば、次のような行がコメントになります。

```
;これはコメント
```

データの視点の設定

データの視点バーは、以下の 2 つの方法で設定できます。

- ドロップダウンリストを使用せずにデータの視点バーを設定するには、データの視点オプションを使用します。この方法では、ディメンションを選択し、[Change Point of View (データの視点の変更)] ページからメンバを選択すると、データの視点を変更できます。
- ドロップダウンリストを使用してデータの視点バーのディメンションを設定するには、スマートなデータの視点オプションを使用します。この方法では、ディメンションを選択し、ドロップダウンリストからメンバを選択すると、データの視点を変更できます。

データの視点オプションの設定

ドロップダウンリストを使用せずにデータの視点バーを指定するには、データの視点オプションを使用します。以下のオプションを指定することができます。

- 動的レポート、チャートと条件ページに表示されるデータの視点バー
- [Change Point of View (データの視点の変更)] ページに表示されるディメンション

データの視点オプションは、次のように設定します。

- 動的レポート、チャート、条件ページと [Change Point of View (データの視点の変更)] ページにディメンションの説明を表示するのラベル名を表示するの指定します。
- 動的レポート、チャートと条件ページのデータの視点バーに、どのディメンションをいくつ表示するかを指定します。
- [Change Point of View (データの視点の変更)] ページに、どのディメンションをいくつ表示するかを指定します。
- [Change Point of View (データの視点の変更)] ページに表示される最大メンバー数を指定します。

Hyperion Enterprise Reporting Web のデータの視点バーのディメンションの表示順は、Hyperion Enterprise Reporting のデータの視点バーの順番と同じです。

- ▶ 動的レポート、チャート、条件ページと [Change Point of View (データの視点の変更)] ページにディメンションの説明を表示するのラベル名を表示するの指定するには、次の操作を行います。

1 次のセクション識別を使用します。

[DEFAULT]

2 次の構文を使用します。

UseLongNamesInPOVBar =YまたはN

ここで、「Y または N」には、ディメンションの説明を表示する場合 Y を、ディメンションの ID を表示する場合は N を指定します。

注： このオプションは Hyperion Enterprise Reporting Web で [オプション] を選択しても設定できます。この行を指定しない場合はデフォルトでディメンションの説明が表示されます。

- ▶ 動的レポート、チャートと条件ページのデータの視点バーに表示するディメンション数と、どのディメンションを表示するかを指定するには、次の操作を行います。次のセクション識別を使用します。

- Hyperion Enterprise の場合

[Product Name, Application Name]

- Oracle Essbase の場合

[Product Name-Essbase Server\Application Name, Essbase Database]

| 変数 | 説明 |
|------------------|--|
| Product Name | repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションで定義されたオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名 |
| Application Name | アプリケーション名 |
| Essbase Server | Essbase のサーバ名 |
| Essbase Database | Essbase のデータベース名 |

- ▶ 動的レポート、チャートと条件ページのデータの視点バーに表示するディメンション数を設定するには、次の構文を使用します。

[DEFAULT]

```
default_povbar_keys = number
```

- ▶ [Change Point of View (データの視点の変更)] ページに表示するディメンション数を設定するには、次の構文を使用します。

[DEFAULT]

```
default_povedit_keys = number
```

ここで、number はディメンション数です。

注： この行を指定しないと、デフォルト値の 5 が使用されます。

- ▶ 動的レポートとチャートのデータの視点バーにどのディメンションを表示するかを指定するには、次の構文を使用します。

[DEFAULT]

```
B_dimension = YまたはN
```

- ▶ [Change Point of View (データの視点の変更)] ページに、どのディメンションを表示するかを指定するには、次の構文を使用します。

[DEFAULT]

```
E_dimension = YまたはN
```

ここで、dimension はディメンション数です。dimension を Y に設定するとディメンションがデータの視点バーに表示され、dimension を N に設定すると表示されません。

注： ディメンションにこの行を指定しないと、default_povbar_keys と default_povedit_keys により指定されたディメンション数に応じてディメンションがデータの視点バーに表示されます。

- ▶ [Change Point of View (データの視点の変更)] ページの各ディメンションに対して表示されるデフォルトメンバ数を指定するには、次の操作を行います。

- 1 次のセクション識別を使用します。

[DEFAULT]

- 2 次の構文を使用します。

```
MaxListEntries = number
```

ここで、number はメンバ数です。

注： 各ユーザーに対して個別に MaxListEntries を保存し、変更することができません。例えば、MaxListEntries が 500 に設定されている場合、ユーザ A が Hyperion Enterprise Reporting を使い始めると、500 という値が保存されます。

その後で管理者が `MaxListEntries` を 200 に変更した場合は、ユーザ A は引き続き 500 という値を使用しますが、Hyperion Enterprise Reporting をまだ使い始めている他のすべてのユーザは 200 という値を使用します。

スマートなデータの視点オプションの設定

ドロップダウンリストを使用してデータの視点バーのディメンションを設定するには、スマートなデータの視点オプションを使用します。この方法では、ディメンションを選択し、ドロップダウンリストからメンバを選択すると、データの視点を変更できます。スマートなデータの視点オプションは、次のように設定できます。

- `spider.ini` に `smartpov` オプションを使用すると、すべてのデータの視点バーをスマートなデータの視点バーに置き換えることができます。
- テンプレートに `@SMARTPOV` カスタム変数を設定すると、そのテンプレートを使用するページにスマートなデータの視点バーが追加されます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting 管理者用リファレンスガイド』の「データの視点バーの追加」の章を参照してください。

▶ データの視点バーをスマートなデータの視点バーに置き換えるには、次の操作を行います。

- 1 次のセクション識別を使用します。

[DEFAULT]

- 2 次の構文を使用します。

`smartpov = default`

注： このオプションを設定すると、データの視点バーが設定されているところにスマートなデータの視点バーが使用されます。

Hyperion Enterprise のスマートなデータの視点

デフォルトでは、スマートなデータの視点バーに次のディメンションが表示されます。

エンティティ、データ種別、期間、期間単位、勘定科目

注： デフォルトでは、スマートなデータの視点バーにディメンションの説明が表示されます。ディメンション ID を表示するには、各ディメンションのレポートスクリプトを編集する必要があります。

初めてスマートなデータの視点バーを表示すると、`spider.ini` ファイルの `[PRODUCT]` セクションにスマートなデータの視点オプションが追加されます。

構文

製品セクション識別とスマートなデータの視点オプションの構文は、次のとおりです。

```
[Product Name]
SMPOV_dimension = [report script]
```

| 変数 | 説明 |
|----|----|
|----|----|

| | |
|--------------|--|
| Product Name | repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションで定義されたオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名 |
|--------------|--|

| | |
|-----------|----------|
| dimension | ディメンション名 |
|-----------|----------|

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| report script | ドロップダウンリストに表示するメンバを指定するために使うスクリプト |
|---------------|-----------------------------------|

注： このスクリプトを編集して、データの視点バーに表示するディメンションとメンバを変更することができます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting Web 管理者用リファレンスガイド』を参照してください。

例えば、Hyperion Enterprise でスマートなデータの視点バーを含むページを表示すると、spider.ini ファイルの[PRODUCT]セクションの次のオプションが更新されます。

[Enterprise]

```
SMPOV_ENT=[ENT @PAR HEAD "@DES"] [ENT @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_CAT=[LIST: CAT]
SMPOV_DAT=[LIST: DAT]
SMPOV_FRE=[LIST: FRE, -All, +M]
SMPOV_ACC=[LIST: ACC, -SubAcc1, -SubAcc2] [TEXT:-----] [ACC @SUB HEAD
"...@DES"]
SMPOV_SUBENT=
SMPOV_SUBACC1=
SMPOV_SUBACC2=
SMPOV_FIE=
```

特定アプリケーションのスマートなデータの視点バーの外観を変更するには、アプリケーションセクションにスマートなデータの視点オプションを追加する必要があります。

例えば、次のオプションにより、Enterprise のデモアプリケーションのスマートなデータの視点バーに、四半期の期間単位を含めるように設定します。

[enterprise,demo]

```
SMPOV_FRE=[LIST: FRE, -All, +Q]
```

スマートなデータの視点バーを使用すると、Hyperion Enterprise Reporting Web によりアプリケーションセクションが最初にチェックされ、ここにスマートなデータの視点オプションが見つからないと製品セクションがチェックされます。

Essbase のスマートなデータの視点

デフォルトでは、スマートなデータの視点バーに次のディメンションが表示されます。

フィールドディメンションを除くすべてのディメンションです。

注： デフォルトでは、スマートなデータの視点バーにディメンションの説明が表示されます。ディメンション ID を表示するには、各ディメンションのレポートスクリプトを編集する必要があります。

初めてスマートなデータの視点バーを表示すると、spider.ini ファイルのデータベースセクションにスマートなデータの視点オプションが追加されます。

構文

データベースセクション識別とスマートなデータの視点オプションの構文は、次のとおりです。

```
[Product Name-Essbase Server\Application Name, Essbase Database]
SMPOV_dimension = [report script]
```

| 変数 | 説明 |
|------------------|---|
| Product Name | repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションで定義されたオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名 |
| Essbase Server | サーバ名 |
| Application Name | アプリケーション名 |
| Essbase Database | データベース名 |
| dimension | ディメンション名 |
| report script | ドロップダウンリストに表示するメンバを指定するために使うスクリプト 注： このスクリプトを編集して、データの視点バーに表示するディメンションとメンバを変更することができます。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting 管理者用リファレンスガイド』の「データの視点バーの追加」の章を参照してください。 |

例えば、Essbase の基本データベースでスマートなデータの視点バーを含むページを表示すると、spider.ini ファイルのデータベースセクションの次のオプションが更新されます。

```
[Essbase-EssServer\Demo, basic]
SMPOV_Y=[Y @PAR HEAD "@DES"] [Y @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_V=[LIST: VIEW]
SMPOV_M=[M @PAR HEAD "@DES"] [M @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_P=[P @PAR HEAD "@DES"] [P @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_A=[A @PAR HEAD "@DES"] [A @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_S=[S @PAR HEAD "@DES"] [S @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_F=
```

デモアプリケーション内のすべてのデータベースにスマートなデータの視点オプションを設定するには、アプリケーションセクションにこのオプションをコピーし、データベースセクションから削除する必要があります。

例えば、次のオプションにより、デモアプリケーション内のすべてのデータベースに YEAR ディメンションをレベル 0 値に設定します。

```
[Essbase-EssServer\Demo]
SMPOV_Y=[LIST: Y,+"Lev0,Year"]
```

YEAR のためのスマートなデータの視点オプションは、データベースセクションから削除します。

```
[EssBase-EssServer\Demo,Basic]
```

```
SMPOV_V=[LIST: VIEW]
SMPOV_M=[M @PAR HEAD "@DES"] [M @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_P=[P @PAR HEAD "@DES"] [P @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_A=[A @PAR HEAD "@DES"] [A @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_S=[S @PAR HEAD "@DES"] [S @DEP HEAD ".....@DES"]
SMPOV_F=
```

スマートなデータの視点バーを使用すると、Hyperion Enterprise Reporting Webによりデータベースセクションが最初にチェックされ、ここにスマートなデータの視点オプションが見つからないとアプリケーションセクションがチェックされます。

保護データのみを表示

ユーザが保護されたデータのみを表示できるようにするには、lock_data_only オプションを使用します。例えば、最終的に承認されている昨年のデータのみを表示をユーザに許可する場合、データを保護することにより、作成されるレポートには保護されたデータのみが表示されます。保護されていない未承認のデータは表示されないため、混乱を避けることができます。

注： 保護されたデータは、Hyperion Enterprise のみで利用できます。

- 保護されたデータのみを表示するには、次の構文を使用します。

```
[Product Name, Application]
```

```
locked_data_only = yes または no
```

| 変数 | 説明 |
|----|----|
|----|----|

| | |
|--------------|--|
| Product Name | repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションで定義されたオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名 |
|--------------|--|

| | |
|-------------|-----------|
| Application | アプリケーション名 |
|-------------|-----------|

yes または no 保護されたデータのみを表示するには yes、すべてのデータを表示するには no

エージェントオプションの設定

エージェントの電子メールをどのように処理するかを指定するエージェントオプションを設定できます。これらの設定は、Hyperion Enterprise Reporting Web の Hyperion Enterprise Reporting セッションに適用されます。次のコマンドを使用できます。

- Essbase の場合にのみ、proc0 コマンドを使用します。このコマンドは、エージェントサーバと Essbase サーバが同じコンピュータ上にある場合に使用します。デフォルトでは、エージェントサーバが Essbase サーバの前に起動される

ため、エージェントサーバは Essbase サーバを探しても見つからないので、エラーを報告します。proc0 = Essbase.exe と設定した場合、エージェントサーバは Essbase サーバの起動を待ってからエージェントの処理を始めます。Essbase サーバは Essbase.exe です。

- リモートポートを設定するには、RemotePort コマンドを使用します。

- Essbase の場合にのみ、リモートホストを設定するには、次の構文を使用して [reqstart] セクションに proc0 コマンドを設定します。

Proc0 = essbase.exe

- [Agent-e-mail] セクションにエージェントオプションを設定するには、次の構文を使用します。

[Agent-email]

RemotePort = port number

RemoteHost = host name

Template = template name

returnaddress = return address

logfile = logfile name

domainname = domain name

verify = verify number

SendTimeOut = number

RecieveTimeOut = number

| 変数 | 説明 |
|--------------------|--|
| Port number | リモートポート番号 デフォルトは 25 です。 |
| Host Name | SMTP メールサーバの名前または IP アドレス |
| Template Name | メッセージテンプレートのパスと名前 |
| return address | 差出人電子メールアドレス |
| logfile name | ログファイルのパスと名前。これはデバッグ用に使用されます。このパラメータはオプションです。 |
| domain name | ドメインのアドレス。このパラメータはオプションです。 |
| verify number | ユーザがシステムの有効なユーザであることを検証するには 1 を指定します。 検証せずにメッセージを送信するには 0 を指定します。 デフォルトは 0 です。 |
| number | タイムアウトの送信または受信までの待ち時間（秒数） |

注： Hyperion Enterprise Reporting Web の [エージェント] を選択しても、RemotePort と RemoteHost オプションを設定できます。

マルチスレッドオプションの設定

タスクを一度に 1 つずつ行うことをユーザに許可するには、マルチスレッドオプションを使用します。タスクを一度に 1 つずつ行うことをユーザに許可するには、このオプションを 0 に、タスクを同時に実行することを許可するには -1 に設定します。例えば、ユーザ 1 がレポート A を実行した後にユーザ 2 がレポート B を実行する場合、MultiThread=0 であれば、レポート A が終わってからでないとレポート B が始まりません。

上の例でマルチスレッドが -1 に設定されている場合、レポート A の処理が始まった後で、レポート B が始まり、2 つのレポートが同時に処理されます。

注： Hyperion Enterprise にマルチスレッドでアクセスできるようにするには、Enterprise データサーバをいずれかのモードで実行し、アプリケーションが読み取り専用モードで、なお且つ、spider.ini ファイルに次の設定を追加する必要があります。

[Enterprise]

MultiThread = -1

repeng.ini ファイルにドライバ名として Enterprise 以外の名前を使用する場合、spider.ini エントリにその名前を使用します。

マルチスレッドオプションを指定するには、次の構文を使用します。

[Product]

MultiThread = 0 または -1

| 変数 | 説明 |
|----|----|
|----|----|

| | |
|---------|--|
| Product | repeng.ini ファイルの [DRIVERS32] セクションで定義されたオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名 |
|---------|--|

0 または -1 次のいずれかの番号を指定します。

0 - タスクを実行できるのは一度に 1 人だけです。

-1 - 複数のユーザが一度にタスクを実行できます。

PDF の印刷方法

PDF ファイルをどのように作成してブラウザに送信するかを指定するには、PDF ファイルオプションを使用します。デフォルトでは、PDF ファイルが動的に作成されてブラウザに送信されます。一部のブラウザでは、この形式の PDF ファイルを表示できません。ブラウザの PDF ファイル表示に問題がある場合、ブラウザに送信する前に PDF ファイルを作成（リリース 3.0 の方法）するように PDF オプションを設定すれば、問題を解決することができます。これで問題が解決しない

場合、PDF ファイルを作成してから Javascript とともにブラウザに送信するように PDF オプションを設定します。これにより、すべての問題を解決できるはずです。

Hyperion Enterprise Reporting Web では、次のいずれかの方法で PDF ファイルを作成します。

- デフォルトの方法：PDF ファイルを作成するために、Web ブラウザから Hyperion Enterprise Reporting サーバにリクエストが送られます。デフォルトでは、Hyperion Enterprise Reporting サーバからリクエストされた PDF ファイルが Web ブラウザに直接送られます。このファイルはサーバに残りません。
- リリース 3.0 の方法

この方法では、Web ブラウザから PDF ファイルがリクエストされると、Hyperion Enterprise Reporting サーバからブラウザに応答が返されます。この応答により、サーバ上の PDF ファイルの位置がブラウザに伝えられて、ブラウザにファイルが読み込まれます。このファイルは、一定間隔で行われるクリーンアップ時に削除されるまで、Hyperion Enterprise Reporting サーバに残ります。デフォルトのクリーンアップ間隔は 24 時間です。

注： この方法では、レポートが 3 回にわたって実行され、各 PDF リクエストに対して 3 つの PDF ファイルが作成される可能性があります。

代替方法

この方法では、Web ブラウザから PDF ファイルがリクエストされると、Hyperion Enterprise Reporting サーバからブラウザに HTML ファイルが返されます。HTML ファイルには Javascript が含まれ、これによりリクエストされた PDF ファイルが直ちに読み込まれて、バックシーケンスから HTML ファイルが削除されます。Javascript をサポートしないブラウザでは、PDF ファイルへのハイパーリンクが表示されます。この場合、一定間隔で行われるクリーンアップ時に削除されるまで、Hyperion Enterprise Reporting サーバにファイルが残ります。デフォルトのクリーンアップ間隔は 24 時間です。

1. デフォルト PDF 印刷方法（サーバにファイルが残らない方法）を使用するには、何もする必要はありません。Hyperion Enterprise Reporting Web ではこの方法がデフォルトで使用されます。
2. リリース 3.0 の PDF 印刷方法を使用するには、**spider.ini** ファイルの [OPTIONS] セクションに次の行を追加します。

```
[OPTIONS]
PDFFile=1
```

3. 別の PDF 印刷方法を使用するには、**spider.ini** ファイルの [OPTIONS] セクションに次の行を追加します。

```
[OPTIONS]
PDFFile=2
```

► PDF ファイルオプションを指定するには、次の構文を使用します。

```
[OPTIONS]
```

PDFFile = 1または2

| 変数 | 説明 |
|----|----|
|----|----|

| | |
|-----------|---------|
| [OPTIONS] | セクション識別 |
|-----------|---------|

1 または 2 次のいずれかの設定を指定します。

- PDF ファイルを作成してブラウザに送信するには 1 を指定します。
- PDF ファイルを作成し、Javascript を使ってブラウザに送信するには 2 を指定します。

Default

この行を指定しないと、PDF 情報が動的に作成されてブラウザに送信されます。PDF ファイルはサーバに保存されません。

ログファイルオプションの設定

Hyperion Enterprise Reporting Web の実行中にどの種の情報を記録するかを指定するために、ログファイルオプションを使用します。この情報はデバッグ用に使用され、記録する情報の種類とログファイル名を指定できます。ログファイルオプションを指定しないと、ログファイルは作成されません。

- [DEFAULT]セクションにログファイルオプションを指定するには、次の構文を使用します。

[DEFAULT]

SpiderLog = SpiderLog filename

CDALog = CDALog filename

ChartLog = ChartLog filename

ScriptLog = ScriptLog filename

| 変数 | 説明 |
|----|----|
|----|----|

| | |
|--------------------|--|
| SpiderLog filename | Hyperion Enterprise Reporting Web メッセージにより更新するログファイルのパスと名前 |
|--------------------|--|

| | |
|-----------------|---|
| CDALog filename | Hyperion Reporting メッセージにより更新するログファイルのパスと名前 |
|-----------------|---|

| | |
|-------------------|----------------------------------|
| ChartLog filename | チャートファイルメッセージにより更新するログファイルのパスと名前 |
|-------------------|----------------------------------|

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| ScriptLog | スクリプトファイルメッセージにより更新するログファイルのパスと名前 |
|-----------|-----------------------------------|

注： 各ログエントリに対して同じログファイル名を使用できますが、名前には大文字と小文字が区別され、完全に同じものを指定する必要があります。

レポートのキャッシュ

CacheReports オプションを設定してメモリにレポートをキャッシュすることにより、レポートにすばやくアクセスできます。**CacheReports** オプションは、すべて

の製品とアプリケーションに適用されます。キャッシュにはサーバのメモリが使用されるため、レポートのキャッシュを行うかどうかを検討する際、メモリの使用量を考慮する必要があります。

キャッシュされるのは、選択されたディメンションとレポートの書式設定を含むレポートの初期設計のみです。レポートのデータはキャッシュされません。

レポートがキャッシュされた後で、レポートに行を追加するなど、レポートの初期設計を変更すると、次のいずれかの条件が満たされるまで、Hyperion Enterprise Reporting Web でその変更が認識されません。

- サーバを停止して再起動した場合
- Essbase データベースまたは Hyperion Enterprise アプリケーションのキャッシュの内容をフラッシュした場合。

注： レポートのキャッシュを利用するには、ログオンのキャッシュを使用する必要があります。

► レポートをキャッシュするには、次の構文を使用します。

[DEFAULT]

CacheReports = YまたはN

ここで、レポートのキャッシュを有効にする場合は Y を、無効にする場合は N を指定します。

注： CacheReports オプションを指定しないと、デフォルトによりレポートのキャッシュが有効になります。

ログオンのキャッシュ

ログオンのキャッシュを設定して、システムのメモリに特定のアプリケーションに対するユーザのログオンプロファイルを保存することにより、よりすばやくシステムにアクセスできます。ログオン情報がキャッシュされたユーザがシステムに次回アクセスすると、キャッシュされているログオン情報が自動的に使われ、すばやくアクセスできます。ログオン情報は、Microsoft IIS サーバのサイクルが終わるまでキャッシュに残ります。キャッシュにはサーバのメモリが使用されるため、キャッシュのサイズを検討する際、メモリの使用量を考慮する必要があります。

ログオンのキャッシュの設定時には、Hyperion Enterprise Reporting Web と併用する各アプリケーションに対して、キャッシュするユーザの数を設定します。これにより、システムに一度に保管されるログオンの数が決まります。キャッシュがいっぱいになってから新しいユーザがアプリケーションにアクセスすると、キャッシュされている中で最も古い未使用のユーザがシステムからクリアされ、新しいユーザがキャッシュに入ります。Hyperion Enterprise Reporting Web のデフォルトでは、これが 50 ログオンに設定されています。

ブラウザの URL 行に特別な関数を指定しても、キャッシュの内容をクリアすることができます。これによりキャッシュから既存のログオンがすべて削除されます。

Hyperion Enterprise では、キャッシュするログオンの数を、Hyperion Enterprise Reporting Web を使用するユーザの数と同じに設定する必要があります。Essbase

では、これをポート数以下とする必要があります。フレームを使用して Hyperion Enterprise にアクセスする場合には、キャッシュサイズを 2 倍にする必要があります。

- ログオンのキャッシュを指定するには、次の構文を使用します。

[CACHED]

Product Name-Essbase Server\Application Name, Essbase Database = number of users

| 変数 | 説明 |
|----|----|
|----|----|

| | |
|--------------|--|
| Product Name | repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションで定義されたオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名 |
|--------------|--|

| | |
|----------------|----------------------------|
| Essbase Server | Essbase のサーバ名 (Essbase のみ) |
|----------------|----------------------------|

| | |
|------------------|-----------|
| Application Name | アプリケーション名 |
|------------------|-----------|

| | |
|------------------|----------------------------|
| Essbase Database | Essbase のサーバ名 (Essbase のみ) |
|------------------|----------------------------|

| | |
|-----------------|--------------|
| number of users | キャッシュするユーザの数 |
|-----------------|--------------|

注： Hyperion Enterprise Reporting Web のデフォルトでは、これが 50 に設定されています。

次のエントリで、Essbase の 25 人のユーザに対してログオンのキャッシュを有効にします。repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションでオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名が ESSBASE に設定されています。Essbase サーバ名は SERVER1 で、Essbase データベース名は ESSDB です。

[CACHED]

ESSBASE-SERVER1,NEWAPPLICATION, ESSDB=25

次のエントリで、Hyperion Enterprise のデモアプリケーションの 10 人のユーザに対してログオンのキャッシュを有効にします。repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションでオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名が ENTERPRISE に設定されています。

[CACHED]

ENTERPRISE, DEMO=10

ログオンのキャッシュを無効にするには、ユーザ数パラメータを 0 に設定します。例えば、次のエントリで、Hyperion Enterprise デモアプリケーションのログオンのキャッシュを無効にします。repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションでオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェア名が ENTERPRISE に設定されています。

[CACHED]

ENTERPRISE, DEMO=0

- ▶ Essbase のレポートとログオンキャッシュの内容をフラッシュするには、ブラウザの URL に次の行を入力します。

```
http://virtual path/spider.dll?ClearCache&Product-servername  
\Application name&Database
```

| 変数 | 説明 |
|--------------------|---|
| Virtual Path | spider.dll ファイルの仮想パス。例えば、一般的な仮想パスとして server/hspider などがあります。ここで、server はサーバ名です。 |
| Product-servername | repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションで定義された Essbase 製品名と、Essbase サーバ名をハイフンで区切ったもの |
| Application name | Essbase アプリケーションの名前 |
| Database | Oracle Essbase データベースの名前 |

- ▶ Hyperion Enterprise のレポートとログオンキャッシュの内容をフラッシュするには、ブラウザの URL 行に次のアドレスを入力します。

```
http://virtual path/spider.dll?ClearCache&Product&Application
```

| 変数 | 説明 |
|--------------|---|
| Virtual Path | spider.dll ファイルの仮想パス。例えば、一般的な仮想パスとして server/hspider などがあります。ここで、server はサーバ名です。 |
| Product | repeng.ini ファイルの[DRIVERS32]セクションで定義された Hyperion Enterprise 製品名 |
| Application | Hyperion Enterprise アプリケーション |

画像のクリーンアップ間隔

システムからチャートと PDF ファイルを削除する間隔を時間単位で設定することができます。

- ▶ クリーンアップ間隔を設定するには、次の構文を使用します。

```
[DEFAULT]  
ImageCleanupInterval = number
```

ここで、number は時間数です。デフォルトのクリーンアップ間隔は 24 時間です。

repeng.ini ファイルのシステムレベルオプションの設定

repeng.ini ファイルには、以下のシステムレベルオプションを設定できます。

- ユーザプロンプトの無効化
- 調査の設定
- 展開の設定

ユーザプロンプトの無効化

オラクル社の他の Enterprise Performance Management ソフトウェアでは、@ASK 関数を使用してユーザにプロンプトを表示できますが、Hyperion Enterprise Reporting Web ではこの関数はサポートされていません。Hyperion Enterprise Reporting Web との併用を計画する Hyperion Enterprise アプリケーションに @ASK 関数を使用するレポートが含まれる場合、repeng.ini ファイルを変更して、Hyperion Enterprise Reporting のユーザプロンプトを無効にする必要があります。ユーザプロンプトを無効にしないと、ユーザが @ASK 関数を使用するレポートにアクセスしようとしたときに、Web サーバがフリーズします。ユーザプロンプトを無効にすると、@ASK 関数を使用する行または列がレポートに表示されなくなります。

- ▶ ユーザプロンプトを無効にするには、repeng.ini ファイルの [Options] セクションに次の行を入力します。

Web=yes

調査の設定

調査を設定するには、最初に Hyperion Enterprise Reporting で調査レポートを作成する必要があります。それから、調査を定義する必要があります。レポートの調査を定義するには、調査を可能にする行と列を選択し、ユーザがいずれかの行または列の値を選択したときに表示される調査レポートを指定します。調査の設定方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』を参照してください。

調査を設定した後は、repeng.ini ファイルを変更して調査を有効にします。Hyperion Enterprise Reporting のデフォルトでは、[書式] メニューの [調査] コマンドは無効になっています。[調査] コマンドを有効にするには、Hyperion Enterprise Reporting システムの初期化ファイルを編集する必要があります。テキストエディタを使用して、Windows ディレクトリにある repeng.ini ファイルに次のセクションを追加します。

[DEFAULT] OnTrack=1

注： Hyperion Enterprise Reporting で [調査] オプションを有効にすると、自動的に [展開] コマンドも有効になります。

静的レポートとパッケージの調査レベルの設定

Hyperion Enterprise Reporting では、静的レポートとパッケージに複数の調査レベルを設定できます。例えば、レポートの Total Expenses 勘定科目を選択した場合に、Total Expenses の明細勘定を示す調査レポートを表示することが考えられます。さらに、調査レポートの明細勘定を選択した場合に、選択された勘定科目のサブエンティティ明細を示す新しい調査レポートを表示することも考えられます。

Hyperion Enterprise Reporting Web 管理プログラムのデフォルトでは、[調査を含む] オプションを選択して静的レポートを作成すると、最高 4 レベルの調査レポートの HTML ファイルが作成されます。管理プログラムを使用して、Hyperion

Enterprise Reporting Web に含める調査レポートのレベル数を調整することができます。

► 調査レベルを設定するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。
- 2 静的レポートとチャートの調査レベルを設定するには [静的レポート/チャート] を選択し、パッケージの調査レベルを設定するには [静的パッケージ] を選択します。
- 3 必要なアプリケーションにログオンします。
- 4 [出力オプション] タブを選択します。
- 5 [調査を含む] チェックボックスをオンにします。
- 6 [レベル数] 編集ボックスに、含める調査レベル数を入力します。
- 7 [HTML に保存] を選択します。

調査の無効化

調査により、レポートの値をドリルダウンして、その値に関する追加情報を示す新しいレポートを表示することができます。調査を使用する Hyperion レポートに対して Web ページを作成すると、システムのオーバーヘッドが増え、パフォーマンスが低下することがあります。Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションで調査を使用したくない場合は、この機能を無効にすることができます。

► 調査を無効にするには、次の操作を行います。

- 1 動的レポートの調査を無効にするには、**spider.ini** ファイルに次のテキストを入力します。
[OPTIONS] drill=no
- 2 静的レポート、チャートおよびパッケージの調査を無効にするには、**spider.ini** ファイルに次のテキストを入力します。
[OPTIONS] maxdrill=0
- 3 特定アプリケーションの静的パッケージの調査を無効にするには、次の操作を行います。
 - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択して管理プログラムにアクセスし、[静的パッケージ] を選択します。
 - 必要なアプリケーションにログオンします。
 - [出力オプション] タブを選択します。
 - [調査を含む] チェックボックスをオフにします。
 - [HTML に保存] を選択します。
- 4 特定アプリケーションの静的レポートとチャートの調査を無効にするには、次の操作を行います。
 - [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択して

Hyperion Enterprise Reporting 管理プログラムにアクセスし、[静的レポート/チャート] を選択します。

- 必要なアプリケーションにログオンします。
- [出力オプション] タブを選択します。
- [調査を含む] チェックボックスをオフにします。
- [HTML に保存] を選択します。

- 5 ブラウザから特定レポートの調査を無効にするには、URL リクエストの終わりに次のパラメータを入力します。

&DRILL=NO

展開の設定

展開は Hyperion Enterprise Reporting で設定します。展開を設定するには、最初に展開レポートを作成する必要があります。展開レポートとは、展開したい行と列を含んでいるレポートです。次に Hyperion Enterprise Reporting を使用して、そのレポートに展開を定義します。レポートの展開を定義するには、展開を可能にする行と列を選択し、ユーザがいずれかの行または列の展開を選択したときに使われる展開を指定します。Hyperion Enterprise Reporting での展開の定義方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』を参照してください。

注： Hyperion Enterprise Reporting Web では、Hyperion Enterprise Reporting のカスタム展開のみがサポートされています。自動展開はサポートされていません。

Hyperion Enterprise Reporting のデフォルトでは、[書式] メニューの [展開] コマンドが無効になっています。[展開] コマンドを有効にするには、Hyperion Enterprise Reporting システムの初期化ファイルを編集する必要があります。テキストエディタを使用して、Windows ディレクトリにある repeng.ini ファイルに次のセクションを追加します。

[DEFAULT] OnTrack=1

注： Hyperion Enterprise Reporting で [展開] コマンドを有効にすると、自動的に [調査] オプションも有効になります。

静的レポートとパッケージの展開レベルの設定

Hyperion Enterprise Reporting では、複数の展開レベルを定義できます。例えば、レポートの 1997 列を展開した場合に、1997 年度の 4 四半期を示す 4 つの新しい列を表示することが考えられます。さらに、Q3 列を展開した場合に、7 月、8 月、9 月（会計年度ではなく暦年の場合）の新しい列を表示することも考えられます。

Hyperion Enterprise Reporting Web 管理プログラムのデフォルトでは、[展開を含む] チェックボックスをオンにした状態で静的レポートを作成すると、最大 4 レベルの展開の HTML ファイルが作成されます。Hyperion Enterprise Reporting Web

に含める展開レベルは調整できます。静的レポートとパッケージに対して展開レベルを設定するには、以下の2つの方法があります。

- システム全体の展開レベルを設定するには、`spider.ini` ファイルにエントリを追加します。
- 特定レポートのレベルを設定するには、管理プログラムの [Static Reports and Books (静的レポートとパッケージ)] ダイアログボックスの設定を変更します。

注： 展開レベルを 0 に設定すると、展開が無効になります。展開レベルを -1 に設定すると、展開レベルが無限になります。これにより、多数の展開ファイルが作成される可能性があります。

- 静的レポートとパッケージに対して展開レベルを設定するには、次の操作を行います。
- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択して管理プログラムにアクセスします。
 - 2 静的レポートとチャートの展開レベルを設定するには [静的レポート/チャート] を、パッケージの展開レベルを設定するには [静的パッケージ] をそれぞれ選択します。
 - 3 必要なアプリケーションにログオンします。
 - 4 [出力オプション] タブを選択します。
 - 5 [展開を含む] チェックボックスをオンにします。
 - 6 [レベル数] 編集ボックスに、含める展開レベル数を指定します。
 - 7 [HTML に保存] を選択します。
 - 8 [完了] を選択します。

展開の無効化

展開を使用すると、チャートの行または列に関する詳細情報を表示できます。展開を使用する Hyperion レポートに対して Web ページを作成すると、システムのオーバーヘッドが増え、パフォーマンスが低下することがあります。Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションで展開を使用したくない場合は、この機能を無効にすることができます。

- 展開を無効にするには、次の操作を行います。
- 1 動的レポートの展開を無効にするには、`spider.ini` ファイルに次のテキストを入力します。
`[OPTIONS] expand=no`
 - 2 静的レポート、チャートおよびパッケージの展開を無効にするには、`spider.ini` ファイルに次のテキストを入力します。
`[OPTIONS] maxexpand=0`
 - 特定アプリケーションの静的パッケージの展開を無効にするには、次の操作を行います。

- [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択して管理プログラムにアクセスし、[静的パッケージ] を選択します。
 - 必要なアプリケーションにログオンします。
 - [出力オプション] タブを選択します。
 - [展開を含む] チェックボックスをオフにします。
 - [HTML に保存] を選択します。
- 3 特定アプリケーションの静的レポートとチャートの展開を無効にするには、次の操作を行います。
- [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択して管理プログラムにアクセスし、[静的レポート/チャート] を選択します。
 - 必要なアプリケーションにログオンします。
 - [出力オプション] タブを選択します。
 - [展開を含む] チェックボックスをオフにします。
 - [HTML に保存] を選択します。
- 4 ブラウザから特定レポートの展開を無効にするには、URL リクエストの終わりに次のパラメータを入力します。

&EXPAND=NO

カスタムファイルのパスの指定

Hyperion Enterprise Reporting Web の旧リリースでは、カスタムファイルを各 Web アプリケーションのディレクトリに保存している場合、カスタムファイルにアクセスするたびに完全なサーバパスを指定する必要がありました。今回のリリースでは、カスタムファイルへの完全パスまたは部分パスをシステムレジストリに指定できるため、ファイルにアクセスするときに完全なサーバパスを指定する必要がありません。

HKEY_LOCALMACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Hyperion Enterprise Reporting に新たに追加された Path レジストリ設定を使用して、1 つまたは複数のディレクトリへの完全パスまたは部分パスを指定できます。複数のディレクトリを指定する場合は、セミコロンで区切ります。パスステートメントの検索は左から右に行われます。

spider.dll 関数呼び出しで .htx または .cbp ファイルにアクセスすると、次の順番でファイルが検索されます。

1. システムレジストリに指定したパス
2. spider ディレクトリ
3. システムパス

- ▶ システムレジストリにカスタムファイルのパスを指定するには、次の操作を行います。
- 1 [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
 - 2 `regedt32` と入力して、[OK] をクリックします。
 - 3 `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Hyperion Enterprise Reporting` レジストリキーを選択します。
 - 4 [編集] メニューの [値の追加] を選択します。
 - 5 [値の名前] テキストボックスに `path` と入力します。
 - 6 [データ型] ドロップダウンリストから [REG_SZ] を選択します。
 - 7 [OK] をクリックします。
 - 8 [文字列エディタ] にカスタムファイルのパスを入力して、[OK] をクリックします。
 - 9 [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

例 1 - 同一ファイル名がパスにある 2 つのディレクトリで使用されている場合

パスステートメントに部分パスのみを入力しておけば、別のディレクトリに存在する同一ファイル名のファイルのパスを区別できます。これは、.HTX と.CBP のカスタムファイルを、各 Web アプリケーション用の別々のディレクトリに保存して、各ディレクトリで同じファイル名を使用している場合などに効果的です。

例えば、C:ドライブに WEBAPPS というディレクトリがあり、この中には\MYWEB1 および\MYWEB2 という 2 つのディレクトリが含まれ、2 つの Web アプリケーションのすべてのカスタムファイルがそれぞれの中に保存されているものとします。各 Web アプリケーションで MYCRIT.CBP というカスタム.CBP ファイルを作成した場合、2 つの異なるディレクトリに MYCRIT.CBP という同じ名前のファイルが作成されます。ここで、システムレジストリのカスタムファイルのパスステートメントが、次のように指定されている場合を想定してみます。

```
C:\WEBAPPS\MYWEB1;C:\WEBAPPS\MYWEB2
```

この状態で、次の関数呼び出しによりいずれかの MYCRIT.CBP ファイルを呼び出そうとします。

```
http://server/hspider/spider.dll?criteria&mycrit
```

パスステートメントには C:\WEBAPPS\MYWEB1 ディレクトリが先にリストされ、左から右にパスステートメントが検索されるので、C:\WEBAPPS\MYWEB1 の MYCRIT.CBP ファイルが使用されます。

この問題を解決するには、カスタムファイルのパスステートメントで次の部分パスを指定します。

```
C:\WEBAPPS
```

さらに、MYWEB2 にある MYCRIT.CBP ファイルを使用するためのサブディレクトリを関数呼び出しに含めます。

```
http://server/hspider/spider.dll?criteria&myWeb2\mycrit
```

これで正しいファイルが使用されます。

例 2 - デフォルトのテンプレートのコピーを使用する場合

カスタムパスステートメントを使用することにより、spider.dll 関数呼び出しで tfile パラメータを使用しなくても、デフォルトテンプレートの独自のコピーを使用できます。デフォルトテンプレートを変更してカスタムテンプレートを作成する場合、すべてのデフォルトテンプレートを異なるディレクトリにコピーし、ファイル名を変更せずにコピーに変更を加えます。これにより、元のデフォルトテンプレートが維持されます。パスステートメントには、コピーのあるディレクトリを指定し、tfile パラメータを使用せずに spider.dll 関数を呼び出します。

注： Hyperion Enterprise Reporting Web では、データの視点、複合レポート、保護された行と列の見出し、その他の機能に適したテンプレートが選択されるので、この方法を使用することをお勧めします。

エージェントモニタの設定

決まった時刻にエージェントが実行されるようにするには、エージェントモニタを実行します。エージェントモニタにより、各時点でエージェントの実行が必要であるかどうか判定され、必要なエージェントが実行されます。Windows NT Event Viewer 用のアプリケーションログには、各エージェントのステータス情報が記録されます。

エージェントモニタは、Windows NT サービスとして実行されます。このプログラムを実行するには、エージェントモニタサービスを設定する必要があります。サービスの実行中、NT ユーザアカウントがアクティブである必要がないため、1つのサービスとしてエージェントモニタを実行することによりセキュリティが向上します。

オプションとしては、エージェントモニタで受信するすべてのメッセージをログファイルに記録するかどうかと、データベースの再チェックを行うまでに待つ秒数を設定します。

さらに、通知が届かない場合に再送するまで待つ秒数も設定できます。エージェント通知が届かないと、Retry_Actions 表と Retry_Links 表にその情報が書き込まれます。エージェントモニタプログラムにより、定期的にこれらの表がチェックされ、中に含まれるすべての通知の再送信が行われます。通知の再送信が正常に完了すると、そのレコードが表から削除されます。

注： データをチェックするすべてのエージェントに対して、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ上でエージェントモニタサービスを実行する必要があります。

Windows NT サービスとしてエージェントモニタを実行するには、以下の操作を行います。

- Windows の [コントロールパネル] の [サービス] アプレットでサービスの設定と起動を行います。
- エージェントモニタのオプションを設定します。

Hyperion Enterprise Reporting Web をインストールすると、Windows の [コントロールパネル] にエージェントモニタのアイコンが追加されます。

エージェントモニタサービスの設定

▶ エージェントモニタサービスを設定するには、次の操作を行います。

- 1 Windows NT 4.0 の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル]、[サービス] の順に選択します。

または

Windows 2000 の [スタート] メニューから [プログラム]、[管理ツール]、[コンピュータの管理]、[サービスとアプリケーション]、[サービス] の順に選択します。

- 2 エージェントモニタを手動で起動するには、[サービス] リストから [エージェントモニタ] を選択し、[開始] ボタンをクリックします。
- 3 エージェントモニタサービスを自動的に起動するよう設定するには、次の操作を行います。

- Windows NT を使用している場合、[サービス] リストから [エージェントモニタ] を選択し、[開始] ボタンをクリックします。

または

Windows 2000 を使用している場合、[サービス] リストから [エージェントモニタ] を選択し、[プロパティ] をクリックします。

- スタートアップの種類フレームで、[自動] を選択します。
- Windows NT を使用している場合、[アカウント] を選択し、Hyperion Enterprise Reporting Web からネットワークデバイスにアクセスするために設定したものと同一ユーザを選択します。

または

Windows 2000 を使用している場合は [ログオン] タブをクリックし、[アカウント] を選択します。Hyperion Enterprise Reporting Web からネットワークデバイスにアクセスするために設定したものと同一ユーザを選択します。

- 残りのオプションはデフォルト値のままにして、[OK] をクリックします。

注： 次回にシステムを起動すると、このサービスが自動的に開始されます。それ以前にサービスを開始するには、[開始] ボタンをクリックします。

- 4 エージェントモニタサービスを停止するには、次のいずれかの操作を行います。

- Windows NT では、Windows の [コントロールパネル] から [サービス] を選択し、[サービス] リストから [エージェントモニタ] を選択し、[停止] をクリックします。

- Windows 2000 では、[スタート] メニューから [サービス] を選択し、[サービス] リストから [エージェントモニタ] を選択し、[サービスの停止] をクリックします。

エージェントモニタのオプション設定

▶ エージェントモニタのオプションを設定するには、次の操作を行います。

1 オペレーティングシステムに応じて、次のいずれかの操作を行います。

- Windows NT の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル]、[サービス] の順に選択します。
- Windows 2000 の [スタート] メニューから [プログラム]、[管理ツール]、[コンピュータの管理]、[サービスとアプリケーション]、[サービス] の順に選択します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- メッセージをファイルに保存するには、[メッセージをファイルに保存] を選択して編集ボックスにパスとファイル名を指定します。
- チェックの間の待ち時間を秒数で指定するには、[イベント確認後の停止間隔] 編集ボックスに値を入力します。
- 通知が届かない場合に再送するまでの待ち時間を秒数で指定するには、[失敗した動作を再試行する間隔] 編集ボックスに値を入力します。

3 [OK] をクリックします。

4 サービスが既に起動している状態でエージェントモニタの設定を変更するには、次のいずれかの操作を行います。

- エージェントモニタサービスが停止し、再開したときに変更を適用するには、[OK] をクリックします。
- 変更を直ちに適用するには、[適用] ボタンをクリックします。

この章の内容

| | |
|------------------------|----|
| セキュリティレベル | 61 |
| 管理プログラムのセキュリティ設定 | 63 |

この章では、セキュリティの設定について説明します。

セキュリティレベル

Hyperion Enterprise Reporting Web のセキュリティ機能により、次のような方法でデータへのアクセスを制御できます。

- Windows NT Server のセキュリティ機能により、どのユーザがシステムにアクセスできるかを制御できます。
- Web サーバとクライアントコンピュータ間でデータを転送するときに、Secure Sockets Layer (SSL : セキュアソケットレイヤ) プロトコルのセキュリティ機能により、データを暗号化できます。
- オラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアのアプリケーションセキュリティ機能により、アプリケーションデータへのアクセスを制限できます。
- 管理プログラムのセキュリティ機能を設定することにより、どのユーザが Hyperion Enterprise Reporting Web の特定機能にアクセスできるかを制御できます。

これらのセキュリティレベルが組み合わさって、Hyperion Enterprise Reporting Web 内でのデータフローの安全性を保証することができます。Hyperion Enterprise Reporting Web に最初にアクセスすると、Windows NT のユーザ ID とパスワードを入力するダイアログボックスが表示され、これによりプログラムにアクセスできるようになります。Hyperion Enterprise Reporting Web の特定アプリケーション情報に最初にアクセスすると、アプリケーションのユーザ ID とパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。最後に、アクセス制御が行われた機能にアクセスすると、Web ページが表示される前に、最初に許可されたユーザー一覧のユーザであることが確認されます。

Windows NT Server のセキュリティ

Hyperion Enterprise Reporting Web の Web サイトにアクセスするには、各ユーザは Hyperion Enterprise Reporting Web が格納されている Windows NT Server にアカウント

トを持つ必要があります。ユーザがブラウザから Web サーバに最初にアクセスすると、サーバの ID とパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。システムでユーザの ID とパスワードが検証されると、アクセスが認められます。

データの暗号化

標準ネットワークセキュリティメカニズムでは、Web サーバとクライアントのブラウザ間でのデータ転送にデータの暗号化は行われません。Microsoft Internet Information Server (IIS) は、データを暗号化するために SSL セキュリティプロトコルをサポートしています。

SSL を有効にしたサーバからデータを送信する際、このプロトコルは以下の作業を行います。

- セキュリティ保護されたサーバにデータが送信されるようにします (認証)。
- 送信中に誰もデータを読めないようにします (暗号化)。
- 転送中にデータが変更されないようにします (データの整合性)。

サーバで SSL を有効にすると、サーバは、Mozilla Firefox 2.0.x または Microsoft Internet Explorer 6.0 以降など、SSL の有効なブラウザのみにデータを送信します。

注： SSL を有効にしたサーバの情報にアクセスする際、ユーザは URL リクエストに `http://` ではなく `https://` と入力する必要があります。

SSL を有効にする方法については、Microsoft Internet Information Server に付属の『Microsoft Internet Information Server Installation and Planning Guide』を参照してください。

セキュリティ保護されたリソース

Hyperion Enterprise Reporting Web では、Microsoft IIS の基本テキスト認証機能を使用して、セキュリティ保護されたリソースへのアクセスを制御しています。セキュリティ保護されたリソースとは、ユーザがブラウザからアクセスでき、NTFS セキュリティが設定されたサーバ上のすべての項目です。ユーザがある項目に最初にアクセスしようとする、ID とパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。

アプリケーションレベルのセキュリティ

Hyperion Enterprise Reporting Web のアプリケーションレベルのセキュリティは、管理プログラムのレポートにアクセスしたり、ユーザが Hyperion Enterprise アプリケーションのレポート、チャートまたはスプレッドシートを表示するハイパーリンクを選択したりするときに使用されます。

これにより、ユーザのサーバログオン ID とパスワードがアプリケーションのログオン ID とパスワードに一致するかどうかを検証されます。一致するものが見つからない場合、アプリケーションへのログインフォーム (管理プログラムでの [ログイン] ダイアログボックス) が表示され、ユーザはそのアプリケーションへの

別のログオン ID とパスワードを入力できます。ユーザのデータへのアクセスは、Hyperion Enterprise アプリケーションでそのログオン ID に対して定義されたセキュリティ権限により制限されます。

アプリケーションへのログインフォームは、ユーザがアプリケーションに最初にアクセスするときのみ表示されます。システムには、各ユーザのアプリケーションへのログオン ID とパスワードが保存され、ユーザの初回アクセス以後は、これらが検索されて、アプリケーションへのユーザのログオンが自動的に行われます。

例えば、ユーザが JEFF というサーバ ID と 12345 というパスワードで Windows NT Server にログオンする場合を考えてみます。このユーザが、Sales アプリケーションにつながるリンクをクリックすると、アプリケーションへのログインフォームが表示されます。ここで、Sales アプリケーションに USER という ID と ORANGE というパスワードでログオンします。次回 JEFF としてサーバにログオンし、Sales アプリケーションにアクセスするリンクをクリックすると、アプリケーションへのログインフォームは表示されず、USER という ID と ORANGE というパスワードで自動的に Sales アプリケーションにログオンされます。

管理プログラムのセキュリティ設定

アプリケーションレベルのセキュリティ、サーバレベルのセキュリティとデータの暗号化の他に、管理プログラムでオプションを設定して、特定タイプのデータへのユーザアクセスを制御できます。設定できるオプションは以下のとおりです。

- 特定システムとアプリケーションの保護されていないデータに対するアクセスを禁止
- 管理プログラムへのアクセスに使用するパスワードを変更
- どのユーザが財務エージェントにアクセスできるかを制御

保護されていないデータへのアクセスの禁止

Hyperion Enterprise Reporting Web のレポートには、アプリケーションでデータが保護されているかどうかにかかわらず、デフォルトですべての関連データが表示されます。特定アプリケーションと特定製品の保護されていないデータにユーザがアクセスできないようにすることが可能です。保護されていないデータへのアクセスを禁止すると、データを表示できないレポートのセルには「UNLOCKED」（未保護）という語が表示されます。

- 特定システムとアプリケーションの保護されていないデータへのアクセスを禁止するには、spider.ini ファイルに次の設定を入力します。

```
[System, Application]
locked_data_only=yes
```

| 変数 | 説明 |
|----|----|
|----|----|

| | |
|--------|--------------------------|
| System | 保護されていないデータへのアクセスを禁止する製品 |
|--------|--------------------------|

| | |
|-------------|--------------------------------|
| Application | 保護されていないデータへのアクセスを禁止するアプリケーション |
|-------------|--------------------------------|

管理パスワードの変更

管理プログラムへの無許可アクセスを防ぐために、パスワードを追加できます。

▶ 管理パスワードを変更するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Hyperion Enterprise Reporting Web 管理プログラムを Web サーバから実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [オプション] を選択します。
- 3 [管理] タブを選択し、[パスワード] および [パスワードの確認] 編集ボックスに新しいパスワードを入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

財務エージェントのセキュリティ設定

エージェントの作成時には、2 種類のセキュリティを定義する必要があります。エージェントに登録できるユーザまたはグループを定義し、エージェントがオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアにアクセスする方法を定義します。

エージェントに登録できるユーザを定義するには、エージェントへのアクセスを許可するユーザの NT ユーザ ID またはユーザグループ ID を入力します。指定されたユーザのみが、Web ブラウザで [Subscriptions (登録)] ページにアクセスしたときにエージェントを表示することができます。

▶ エージェントのセキュリティを設定するには、次の操作を行います。

- 1 [スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー管理プログラム] の順に選択します。

注： このオプションを設定するには、Hyperion Enterprise Reporting Web 管理プログラムを Web サーバから実行する必要があります。このオプションは、ワークステーションからは設定できません。

- 2 [エージェント] を選択します。
- 3 新しいエージェントを定義するには、[新規作成] を選択します。エージェントを開くには、一覧からエージェントを選択し、[開く] を選択します。
- 4 [セキュリティ] タブを選択します。
- 5 [ユーザーを追加] または [グループを追加] を選択し、エージェントにアクセスを認める NT ユーザまたはユーザグループを選択し、[OK] をクリックします。

ヒント： 一覧からユーザまたはユーザグループを削除するには、ユーザまたはユーザグループを選択して [除去] を選択します。

- 6 セキュリティを設定するレポートを選択して、そのレポートのアプリケーションログオン ID とパスワードを指定します。
- 7 エージェントがアクセスする必要がある各レポートに対して、手順 6 を繰り返します。
- 8 次のいずれかのオプションを使用してエージェントの定義を続けます。
 - VBScript によるエージェントの定義
 - OLE オートメーションによるエージェントの定義

注意 ユーザがブラウザからアクセスする Hyperion Enterprise Reporting Web サーバのエージェントに、ユーザとグループのセキュリティを定義する必要があります。サーバのエージェントモニタのコピーをリモートで実行している場合、正しいユーザー一覧が表示されません。

この章の内容

| | |
|----------------------|----|
| Web サイトウィザードの使用..... | 67 |
| Web メッセージ..... | 71 |

この章では、Hyperion Enterprise Reporting Web の Web サイトウィザードを使って最初の Web サイトを作成する方法について説明します。

Web サイトウィザードの使用

Web サイトウィザードは、HTML ファイルの作成や編集を手動で行わなくても、組織の Web サイトをすばやく簡単に設定できるようにするものです。Web サイトウィザードでは、会社に関するものや、Web サイトに含める情報の種類など、一連の質問が表示されます。これらの質問に対する回答によって、Web サイトのコンテンツと外観が決められます。

Web サイトウィザードで作成される Web サイトは、Microsoft FrontPage の Web サイトです。Web サイトウィザードを実行する前に、システムに Microsoft FrontPage 2000 をインストールしておく必要があります。ウィザードで Web サイトが作成されたら、Microsoft FrontPage で Web サイトを開いて編集することができます。

次の図に、Web サイトウィザードの「ようこそ」画面を示します。

図 7 Web サイトウィザードの「ようこそ」画面

Web サイトウィザードについて

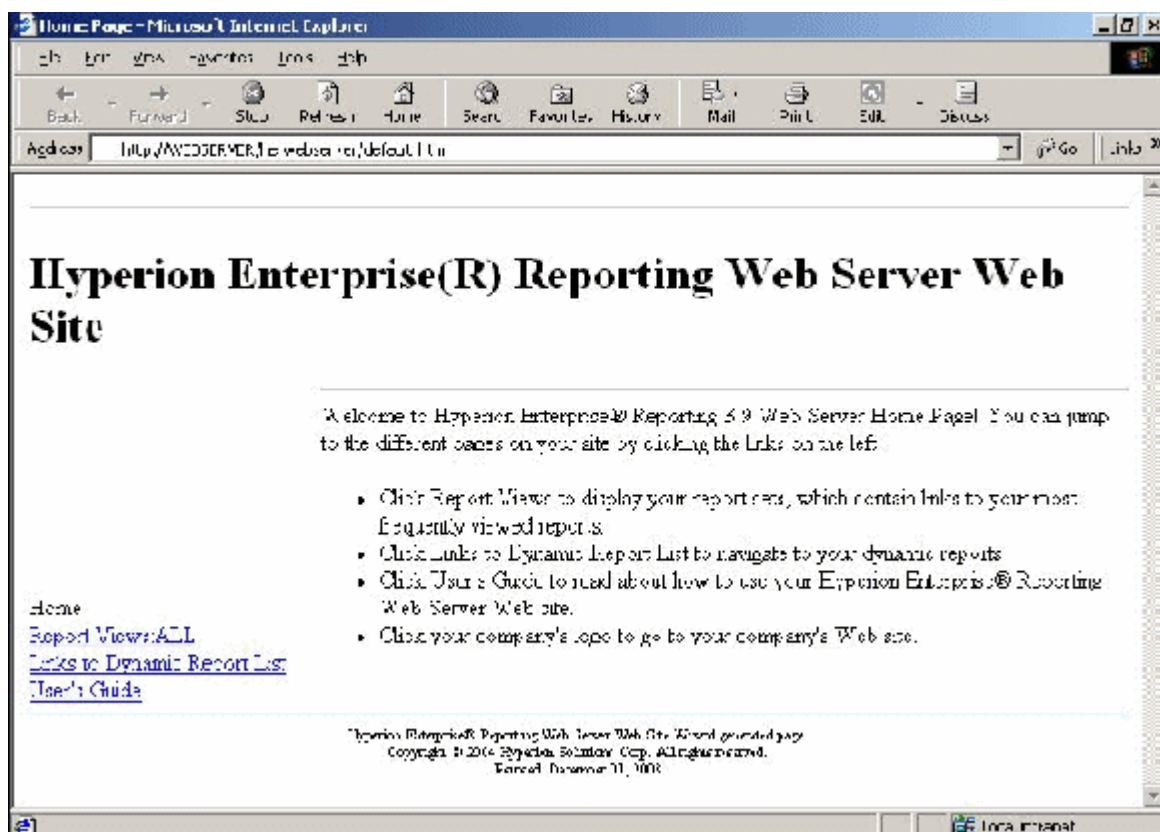
Web サイトウィザードでは、入力した情報に応じて Web サイトが作成されます。ウィザードでは、どの段階でも前の手順に戻って選択を変更できます。

- ▶ ウィザードにより、以下の一連の手順が示されます。
- 1 Web サイトに使用するオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアとアプリケーションにログオンします。
- 2 FrontPage Web の名前を入力します。
- 3 Web サイトの場所を選択します。これにはローカルまたはリモートの Web サーバか、使用するコンピュータのディレクトリを指定できます。選択するサーバに対してアクセス権を持つ必要があります。

- 4 Web サイトのホームページ上部に表示する社名やテキスト、会社のロゴの場所、会社の Web サイトの URL アドレスなど、組織に関する情報を指定します。会社のロゴには、GIF グラフィックファイルを使用する必要があります。
- 5 選択した Hyperion Enterprise アプリケーションの中で、どのレポートセットを Web サイトに含めるかを選択します。Web サイトのホームページには、ドリルダウン可能なレポートリストとして、これらのレポートへのリンクが表示されます。
- 6 Hyperion Enterprise Reporting Web と併用するオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアの動的レポート一覧へのリンクを表示するかどうかを選択します。動的レポート一覧により、製品からアプリケーション、個々のレポートにデータをドリルダウンして表示することができます。
- 7 お気に入りページへのリンクを表示するかどうかを選択します。お気に入りページは、ユーザやユーザグループが共有するために設定する Web ページです。お気に入りについて詳しくは、「[17 ページの「お気に入り」](#)」を参照してください。
- 8 Web サイトに財務インジケータを含めるかどうかを選択します。財務インジケータとは、特定レポートのデータによって外観が変わる条件ベースの Web ページです。
- 9 財務インジケータを使用すれば、[表示順位] 財務インジケータを選択できます。表示順位では、指定した行ディメンションの 2 次元メンバの値が比較され、算出されたパーセントの差が、Web サイトウィザードで生成されたレポートに降順に表示されます。比較ディメンション、比較に使用する基本メンバ、生成されたレポートの行にメンバを表示するディメンションの順に選択します。比較メンバを選択して、Web サイトウィザードで生成された [表示順位] Web ページの行メンバを変更できます。
- 10 財務インジケータを使用すれば、[スコアカード] 財務インジケータを選択できます。スコアカードでは、指定した行および列ディメンションの 2 次元メンバの値が比較され、算出されたパーセントの差とグラフのインジケータが、Web サイトウィザードで生成されたレポートに表示されます。比較ディメンション、比較に使用する基本メンバ、生成されたレポートの行にメンバを表示するディメンション、およびレポートの列に表示するディメンションとそのメンバを選択します。レポートの列にディメンションのメンバを選択しないと、Web サイトウィザードのデフォルトにより、@CUR と @DEP が使用されます。比較メンバを選択して、Web サイトウィザードで生成された [スコアカード] Web ページの行メンバを変更できます。
- 11 選択を見直し、必要であればウィザードの各段階に戻って選択を変更します。
- 12 [完了] ボタンをクリックすると、Web サイトが作成されます。ウィザードにより Microsoft FrontPage 2000 Explorer が表示され、Web サイトに選択したサーバにまだログオンしていない場合には、サーバへのログオンを行うダイアログボックスが表示されます。

次の表に、Web サイトウィザードで作成されたサンプル Web サイトのホームページを示します。

図 8 Web サイトウィザードで作成したホームページ



注： Web サイトウィザードで作成したホームページには、Hyperion Enterprise Reporting Web の HTML 形式の『ユーザガイド』へのリンクが作成されます。

始める前に

Web サイトウィザードを実行する前に、以下の作業を完了しておく必要があります。

- システムに Microsoft FrontPage 2000 をインストールします。
- Hyperion Enterprise Reporting Web と併用できるように正しく設定されたオラクル社の Enterprise Performance Management ソフトウェアとアプリケーションがあることを確認します。
- Web サイトを保存する予定のサーバにアクセス権があることを確認します。

Web サイトウィザードの開始

- ▶ Web サイトウィザードを開始するには、[スタート] メニューから [プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Reporting]、[Web サーバー Web サイトウィザード] の順に選択します。

Web サイトの表示

- ▶ Web サイトを表示するには、次の操作を行います。

- 1 Web ブラウザを起動します。
- 2 ブラウザに次の URL を入力します。

`http://Servername/WebApplicationName`

| 変数 | 説明 |
|--------------------|--|
| Servername | Web サイトを保存するために選択した Web サーバ |
| WebApplicationName | ウィザードで入力した Web アプリケーション名。これはウィザードにより作成された Web の名前です。 |

Microsoft FrontPage 2000 で Web サイトを開く

Web サイトウィザードで作成される Web サイトは、Microsoft FrontPage の Web サイトです。これは、Microsoft FrontPage 2000 で Web サイトを開いて、このプログラムの多くの Web オーサリング機能を利用できることを意味します。例えば、Web サイトのグラフィック表示を変更するには、Microsoft FrontPage 2000 で Web サイトを開いて、別の FrontPage のテーマを適用します。

- ▶ Microsoft FrontPage 2000 で Web サイトを開くには、次の操作を行います。
 - 1 Microsoft FrontPage 2000 を起動します。
 - 2 [ファイル] メニューから [Web を開く] を選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - サーバの Web サイトを開くには、[フォルダ名] ボックスに Web の URL を入力して [開く] ボタンをクリックします。
 - ローカルコンピュータのディスクにある Web サイトを開くには、[フォルダ名] ボックスに Web が存在するフォルダのパスを入力して [開く] ボタンをクリックします。

注： [検索先] ボックスで [Web フォルダ] を選択して、FrontPage Web の一覧を表示できます。開く Web を一覧から選択し、[開く] ボタンをクリックします。

Microsoft FrontPage の詳細

Microsoft FrontPage について詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.microsoft.com>

Web メッセージ

Hyperion Enterprise 製品では Web メッセージをサポートしています。オラクル社の Hyperion® Enterprise® Web、オラクル社の Hyperion® Enterprise® Reporting Web、Distributed Schedules および Distributed Retrieve アプリケーションを使用して、メッセージを送信／受信できます。

索引

記号

, 51

A - Z

ASK 関数, 52

HTML

Web ページ, 12

説明, 12

データ入力の有効化, 33

特殊文字の変換, 34

フレーム, 12

HTML ページ

説明, 8

Hyperion Enterprise Reporting Web

機能一覧, 16

説明, 11

LAN, データへのアクセス, 28

Link Builder の説明, 18

NT

エージェントモニタサービス, 59

セキュリティ, 61

PDF

印刷の設定, 30

印刷方法, 30

レポート, 21

PDF の印刷方法

SPIDER.INI ファイルのオプション, 46

SPIDER.INI, システムレベルオプションの設定, 37, 51

SPIDER.INI ファイルのオプション

PDF の印刷方法, 46

エージェントオプションの設定, 44

画像のクリーンアップ間隔, 51

構文, 38

データの視点, 38

保護データのみを表示, 44

マルチスレッド, 46

レポートとログオンキャッシュのフラッシュ, 51

レポートのキャッシュ, 48

ログオンのキャッシュ, 49

ログファイル, 48

SSL セキュリティ, 61

Web

ウィザード, 17

動的および静的ページ, 12

Web サイトウィザード

使用, 67

説明, 17, 67

始める前に, 69

Web ページ

基準ベース, 19

種類, 12

説明, 8

Windows NT のセキュリティ, 61

あ行

アクティブコンテンツ, 9

アプリケーション, セキュリティ, 62

暗号化, データ, 62

インストール手順, 24

エラー, エージェント通知, 59

エージェント

セキュリティ, 64

モニタ, 60

エージェントオプション

SPIDER.INI ファイルのオプション, 44

エージェントモニタ

設定, 58, 59

お気に入り

説明, 17

ユーザ定義, 36

オンラインヘルプ

説明, 24

か行

カスタムファイル, パスの指定, 56

関数, ASK, 52

管理

オプションの一覧, 27

パスワードの変更, 64

プログラム, 17

管理者用リファレンスガイド, 24

ガイド

インストール手順とリリースノート, 24

管理者用リファレンス, 24

セットアップガイド, 24

テクニカルリファレンス, 24

ユーザ, 24

画像のクリーンアップ間隔

SPIDER.INI ファイルのオプション, 51

基準, Web ページの変更, 19

基準ベースのページ, 説明, 19

機能一覧, 16

基本テキスト認証, 62

行と列見出し, 保護, 32

行と列見出しの保護, 32

グラフィック形式, 9

コンテンツ, アクティブ, 9

コンポーネント, ホームページの, 10

さ行

財務エージェント, 19

システム, 設定, 27

システムの設定, 7

システムレベルオプション

SPIDER.INI, 37

一覧, 27

書式設定, レポートとチャート, 20

静的パッケージ

調査レベルの設定, 52

展開レベルの設定, 54

静的レポート

説明, 18

調査レベルの設定, 52

展開レベルの設定, 54

静的レポート, 展開レベルの設定, 54

セキュアソケットレイヤプロトコル, 61

セキュリティ

アプリケーションレベル, 62

オプションの設定, 63

サーバレベル, 61

財務エージェント, 64

設定, 37

データの暗号化, 62

説明, データの視点バー, 32

た行

チャート

説明, 19

調査

設定, 52

説明, 19

無効化, 53

テクニカルリファレンスガイド, 24

展開

静的レポートとパッケージのレベルの設定, 54

説明, 19

無効化, 55

データ

LAN からのアクセス, 28

アクセスの禁止, 63

暗号化, 62

データ入力モード, 21

データの視点

SPIDER.INI ファイルのオプション, 38

説明, 20

説明の使用, 32

特殊文字, HTML への変換, 34

動的 Web ページと静的 Web ページ, 12

動的レポート, 18

は行

ハイパーテキストリンク, 8

ハイパーリンク, 8

パス, カスタムファイル用の指定, 56

パスワード, 変更, 64

パッケージの定義, 18

複合レポート, 15

フレーム

HTML, 12

設計上の考慮事項, 15

説明, 9

並列表示のレポート, 14

ブラウザ, デフォルトの設定, 33

ブラウザの自動検出設定, 33

プロンプト, ユーザ用の無効化, 52

並列表示のレポート, フレームの, [14](#)
保護されていないデータ, アクセスの禁止, [63](#)
保護データの表示
 SPIDER.INI ファイルのオプション, [44](#)
ホームページのコンポーネント, [10](#)

ま行

マニュアル
 入手可能性, [23](#)
 ロードマップ, [23](#)
マルチスレッドオプション
 SPIDER.INI ファイルのオプション, [46](#)
メモリ, アプリケーションの事前読み込み, [28](#)

や行

ユーザガイド, アクセス, [24](#)
ユーザ定義のお気に入り, 設定, [36](#)

ら行

ライブラリ, レポート, [21](#)
リソース, セキュリティ保護, [62](#)
リリースノート, [24](#)
列見出し, 保護, [32](#)
レポート
 PDF 形式, [21](#)
 静的, [18](#)
 データ入力モード, [33](#)
 特殊文字の HTML への変換, [34](#)
 動的, [18](#)
 複合, [15](#)
 フレームの並列表示, [14](#)
 保護された行と列見出し, [32](#)
 ライブラリ, [21](#)
レポートとログオンのキャッシュ
 フラッシュ, [51](#)
レポートのキャッシュ
 SPIDER.INI ファイルのオプション, [48](#)
レポートライブラリ, 説明, [21](#)
ログオンのキャッシュ
 SPIDER.INI ファイルのオプション, [49](#)
ログファイル
 SPIDER.INI ファイルのオプション, [48](#)

